

迎春



テーマ

- 結婚しない子供への接し方
- 悔いのない結婚をさせる方法
- 結婚相談所の違い など

子供の結婚を考える
親御様のためのセミナー

100% 手作りのお世話®

結婚物語

ドクターの学生結婚

「医学部を卒業したばかりの息子のことで…」相談に来られたのは彼のお母様でした。将来を嘱望されている青年医師が臨床を離れ学問追求の場に戻りました。一般サラリーマン家庭に育った彼は、その優秀な才能を医者として…

➔ 続きはWebで [Em Road 結婚](#)

Marriage Road 結婚

資料無料 ●ドクターズ ●エグゼクティブ ●スタンダード 各コース

0120-4122-46 10:00~18:00 水曜定休

大阪本社 事務局 〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

成婚率の高さがキメテ!!

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のみ構成
- 5 個人情報のパーフェクト・プロテクション

神戸 神戸国際会館22F

京都 オフィス・ワン四條烏丸6F

東京 丸の内トラストタワー20F

大阪医科薬科大学
仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第56巻第1号

発行所

〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX

072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数

安藤嗣彦 6,300部

URL

http://www.jinsenkai.net

謹賀新年



新年のご挨拶

- P3 大阪医科薬科大学仁泉会 理事長 安藤嗣彦 (学20期)
- P4 学校法人大阪医科薬科大学 理事長 植木 實 (学12期)
- P11 大阪医科薬科大学 学長 佐野浩一 (学29期)
- P12 東日本支部 支部長 中嶋秀人 (学37期)
- P13 長野県支部 支部長 高島俊夫 (学21期)
- 静岡県支部 支部長 吹田浩之 (学36期)
- P14 仁泉会大阪府支部連合会 会長 霜野良一 (学28期)
- 西区支部 支部長 浅野彰彦 (学32期)
- P15 港区支部 支部長 奥村隆司 (学31期)
- 浪速区支部 支部長 久保田泰弘 (学36期)
- P16 生野支部 支部長 村田高穂 (学22期)
- P17 東大阪市支部 支部長 大西洋一郎 (学25期)
- 高槻支部 支部長 保田 浩 (学31期)
- P18 大阪医科薬科大学仁泉会 学内支部長 南 敏明 (学36期)
- 貝塚市支部 支部長 川崎康寛 (学35期)
- P19 京都仁泉会 会長 河野龍而 (学35期)
- P20 宝塚支部 支部長 辰井 光 (学32期)
- 和歌山県支部 支部長 湯川裕史 (学29期)
- P22 岡山県支部 支部長 小出尚志 (学28期)
- 香川県支部 支部長 大谷昌裕 (学40期)

目次



近森正幸先生 (学21期)
松岡伸二先生 (学19期)
富永俊彦先生 (学29期)

星賀正明先生 (学34期)

二瓶圭二 (特別期)
鈴木廣一 (学29期)
永井 章 (学38期)

北岡治子 (学28期)
久保田泰弘 (学36期)
熊野宏二 (学39期)
二村吉継 (学49期)

古林光一 (学21期)
梶野興三 (学23期)

竹中正純 (学23期)
石田博文 (学24期)
萩原暢子 (学28期)
清木康雄 (学33期)

岡野 准 (学21期)
富中愛一郎 (学27期)
李 相雄 (学44期)
綾仁悠介 (学60期)

太田利夫 (学31期)

井尻慎一郎 (学31期)
井尻慎一郎 (学31期)
柏木 充 (学49期)
大塚ぼん太コール (学31期)

受章報告

- P24 瑞宝小綬章
- 瑞宝双光章
- 旭日双光章

受賞報告

- P25 医学教育功労者

学会報告

- P26 第20回 日本中性子捕捉療法学会 (JSNCT) 学術大会開催報告
- P28 第7回日本法医病理学会学術全国集会を終えて
- P30 第42回日本小児心身医学会学術集会を終えて

支部だより

- P32 京都仁泉会 秋の講演会 報告
- P34 中浪天合同親睦会 (中央区、浪速区、天王寺区)
- P36 2024 (令和6) 年度 淀川区支部会開催
- P37 仁泉会阿倍野支部開催報告

クラス会だより

- P38 大阪医大47同窓会 開催報告
- P39 学23期 (昭和49年卒) 卒後50周年記念同窓会
「生きてるだけで丸儲け、感謝、感謝の同窓会」
- P40 第85回49杯ゴルフ
- P41 2024あかつき会報告
- P42 学部28期 (昭和54年卒) 女子同窓会旅行記
- P44 大阪医科大学 昭和59年卒業 学33期 (燦々会) 同窓会開催の報告

仁泉ひろば

- P46 クラミジアの話
2024年(令和6年)11月。富中愛一郎 73歳半。
- P47 4名の若人の未来を祝す壮行会に参加して-野球部 追い出しコンパー-
- P48 大槻周平教授就任祝賀会開催のご報告
大阪医科薬科大学バレーボール部OBOG会・六友会主催

寄稿

- P50 下咽頭がんで声を失ったりハ医が、がんと共存していくと思えるまで
～生きていくには社会参加が必要だ!～
- P53 冊子切抜
- P54 会員著書
- P56 会員著書
- P57 まんが第71回

本部だより

- P58 会員計報
- P59 編集後記

新年のご挨拶

大阪医科薬科大学仁泉会 理事長 安藤嗣彦 (学20期)



新年あけましておめでとうございます。本年も全仁泉会会員の皆様に幸多き年でありますよう祈念いたします。

昨年まで猛威をふるった新型コロナウイルスの感染者は激減しています。しかしながら私の診療所の発熱外来での検査では未だに毎日のように陽性者が出ています。高熱の受診者のみならず、ほぼ平熱に近い人でも検査陽性となられる人も散見されます。ウイルスは変異を続け、今後も爆発的な流行も危惧されます。

しかし、世間一般では、マスク着用者は激減しています。JRに乗って仁泉会理事会や大学の評議員会等に出席する為に高槻まで乗車する際も、マスク着用者は外国人旅行者の方が多い印象です。

私も2年前に感染しました。中学校の頃よりほとんど発熱のない生活を送ってきましたが、突然の高熱、筋肉痛で階段も昇れない状態となりました。血液検査ではCRP高値、肝障害、白血球2000と典型的ウイルス感染症を示す検査所見でした。幸いにも長男(神戸大学病院非常勤、救急医)に頼み休診は免れました。家族からは“近づかないで”とバイキン扱いで部屋から出してもらえず、食事は部屋の外におかれ、まるで牢獄生活状態となりました。

さて、大阪医科薬科大学医学部は、昭和2年に創設された5年制の大阪高等医学専門学校を前身として、西日本では最も歴史のある医学校です。現在創立97周年となります。大学創立100周年事業として計画された様々な事業は着々と完成しつつあります。中央手術棟、エネルギー棟、新病院A棟は既に稼働しています。病院では3次救急病院として三島圏の医療の要として、その役割を果たしています。特にコロナ感染流行時には多数の呼吸器合併症の患者さんを受け入れECMO等にて対応したと聞いています。またコロナ感染の妊婦さんに対しては、多くの病院では帝王切開で対応したのに対し、本学では全例経膈分娩で対応しましたが、コロナの母子感染は1例もなかったとのこと。現在新病院B棟も着々と工事が進められています。完成の暁には、西日

本でも有数の大学病院となるでしょう。

大阪薬科大学との合併後、現在阿武山にある薬学部は大学の近くに移転する計画が進んでいます。大阪医科薬科大学は医学部、薬学部、看護学部、各々の大学院を有する複合大学として発展することでしょう。

仁泉会事業としましては、仁泉会員が主催する学会への助成、年6回の仁泉会会報の発行、年1回の総会、各支部会やクラス会、クラブOB会の開催時の支援、講師の派遣のみならず学生会員に対しては奨学金の貸与、優秀な成績で卒業された学生さんには仁泉会理事長賞の贈呈、学園祭、西医体への援助等の種々の事業のみならず4年に1回の名簿発行送付などの事業に会費が使われています。これらの事業は先生方からお納めいただいた仁泉会費で運営されています。残念ながら会費納入率が50%を切りつつあります。是非とも会費納入のご理解ご協力のお願いをさせていただきます。新年のご挨拶とさせていただきます。



【図3】私立学校法の改正（令和7年4月1日施行）



私学法改正の概要

執行と監視・監督の役割の明確化・分離

理事(会)
監事
評議員(会)

権限分離と整頓

①

理事選任機関の設置

②

監事の評議員会による選解任

③

理事と評議員の兼職禁止、理事・評議員数の減員

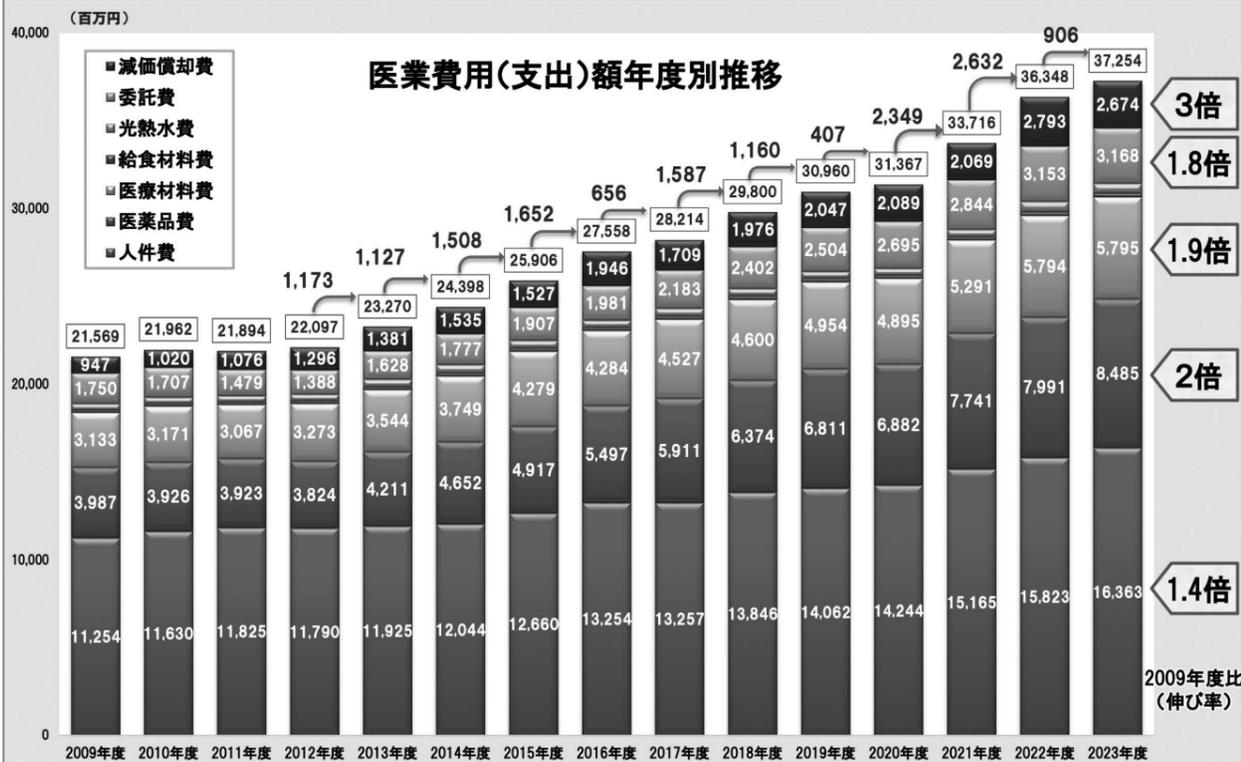
④

評議員会の権限強化

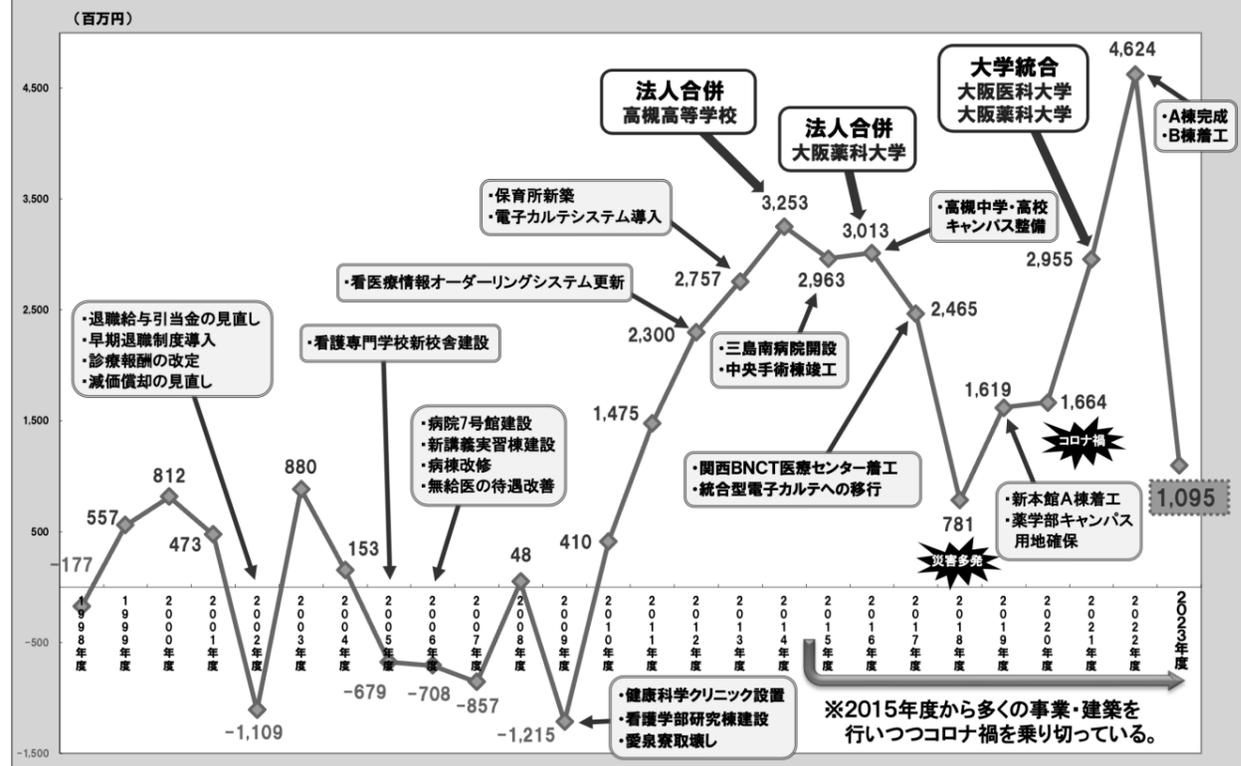
⑤

会計監査人による会計監査の制度化

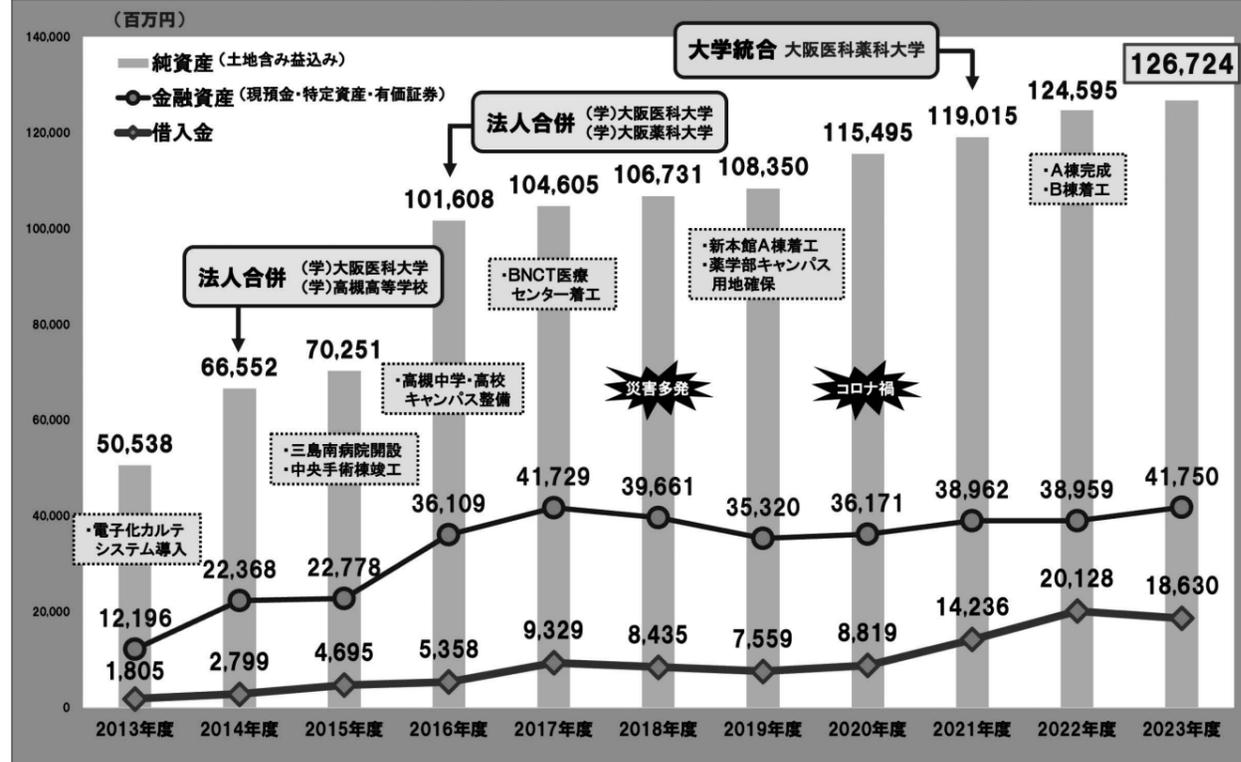
【図4】大学病院：支出の大幅な上昇と各費用の増加割合



【図5】(学)大阪医科薬科大学の事業活動収支差額の推移



【図6】(学)大阪医科薬科大学の純資産・金融資産・借入金推移



収入源は診療報酬や補助金の増加が進んでおらず、2023年度の法人の事業活動収支差額は大きく低下しました【図5】。又、同年度の本学法人の純資産は1,267億2千4百万円に、金融資産は417億5千万円にそれぞれ上昇しましたが、借入金の186億3千万円は病院工事の進展により今年度は増加する予定です【図6】。

4. 医師の働き方改革

本邦では、医師が健康に働き続けることのできる環境を整備することは、医師本人はもとより医療の質・安全を確保する上で重要であるとの観点から、医師の労働時間は一般労働者の上限時間と同じ960時間とし、その他兼業医師、救急医師及び臨床研修医等は1,860時間を上限とする規制を設けて2024年4月に法改正し、改革がスタートしています【図7】。

問題として残るのは労働時間が加算される兼業先での兼業時間管理であり、加えて出向先の病院は労働基準監督署からの宿日直許可の受領等など、今後、同署からの指導が予想されます。

5. 病院新本館及び第1研究館の竣工

病院診療分野の最終建築となる病院新本館のB棟

は、昨年末に最上階の12階まで上棟され【図8】、年明けより内装に入り、2025年5月に竣工し、すでに稼働しているA棟との隔壁を取り払って結合させつつ1棟化し、同年7月22日（火）に開院します。1階はエントランスホールで、総合案内をはじめ初診や入院受付、患者サポートエリアやおくすり窓口、カフェ、コンビニエンスストアなどが配置され、病院の顔になります。地下1階には種々の治療を行う放射線治療センターがあり、2階から4階には同一臓器を診る内科と外科系診療科は同一フロアで受付するなどユニット化した外来が設けられます。5階から12階までは主に病棟になり、6階の小児科病棟には屋外テラスやプレイルームが設置されます。外来患者誘導システムの導入やAIの活用による会計などの待ち時間短縮なども含め、スーパースマートホスピタルの名に相応しい先進的医療体制を整えます。又、B棟もバイオフィリアの考えを反映し、外来には高槻市の花々のイラストに加え、倉敷・大原美術館と連携したホスピタル・アートを設置します。同時に、本院は患者様、そのご家族様や医療従事者にも優しい「温かい大学病院づくり」活動を始めており、高度で安全な医療機能と温かいホスピタリティある対応を兼ね備えた大学病院を築いてまいります。



【図8】
大学病院新本館 B棟
2025年7月 開院

病院診療分野の最終建築となるB棟は、2023年末に最上階の12階まで上棟。

撮影日：2024年11月



【図9】
第1研究館の着工
～キャンパス耐震化100%整備事業～

2024年5月着工。
1階は法医学解剖・研究施設、
2階は病態モデル先端研究施設。

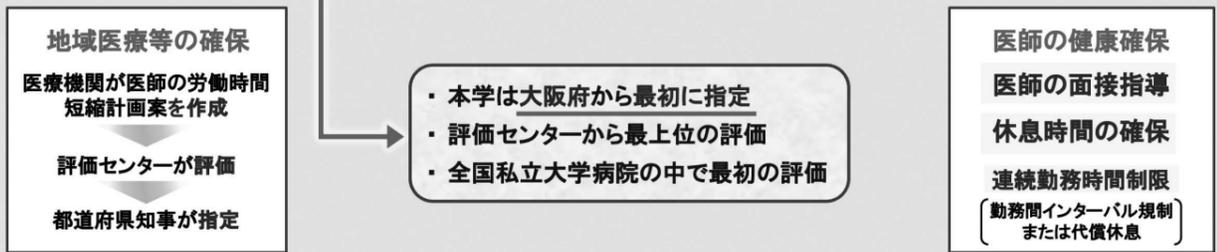
撮影日：2024年11月

【図7】医師の働き方改革 対策



時間外労働上の上限規制と健康確保措置の適用 (2024.4～) 法改正で対応				
医療機関に適用する水準	長時間労働が必要な理由	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保
A (一般労働者と同程度)	原則 (指定取得は不要)	960時間	義務	努力義務
連携B (医師を派遣する病院)	他院と兼業する医師の労働時間を通算すると長時間労働となるため	1,860時間 (各院では960時間) ※2035年度末を目標に終了	義務	義務
B (救急医療等)	地域医療の確保のため			
C-1 (臨床・専門研修)	臨床研修・専門研修医の研修のため	1,860時間		
C-2 (高度技能の修得研修)	長時間修練が必要な技能の修得のため	1,860時間	義務	義務

※1,860時間の上限が適用されるのは、指定理由に対応する医師のみ



一方、文部科学省は2028年までに全大学の耐震化構想を立てており、本学も医学部に残る本部キャンパスの古い建物として法医学解剖室・研究室と実験動物センターの建て替えを2024年5月に着工し、【図9】の如く昨年末には外観が出来上がっており、第1研究館として1階に法医学解剖・研究施設、2階には実験動物センターとして病態モデル先端研究施設が設置され、医学部基礎分野の一層の充実が期待されます。

6. 市の「健康医療先進都市たかつき」宣言を支える大学病院の方向性

上記の宣言をされた高槻市長と対談し、その内容については皆様に送付しました本大学誌『学报7号 (2024年10月発行)』に詳細に記載されています。同市長は、高槻市にはいくつかの中規模病院と多くの医院に加えて

高度医療と医療人を提供する大学病院があり、市民はこの医療体制の充実を享受し、高い健康寿命を誇っていると述べています。この言葉を受けまして、本学法人は豊かな人間性のある医療人 (医師・薬剤師・看護師) に高度な技術を授けて社会に毎年送り出すと共に、大学病院は特定機能病院として先進的医療に取り組むだけでなく、指定16疾患の拠点病院としての責務を果たしつつ、三次救急等を含めた地域医療の最後の砦となっています。加えて、医療の基本と言われる予防医学に関しては、健康管理、そして未病や早期発見から早期治療に対応するために健康科学クリニックを設置するなどして注力し、多くの市民が利用しています。

今後共、本大学病院は市民の皆様が親しまれる温かい大学病院を目指して活動し、発展してまいります。

【図10】(学)大阪医科薬科大学の発展への要点



本学法人は、設立当初より医学教育・研究・医療を通じた社会貢献を行ってきました。現在では薬学部も加わり、毎年、医師約110名、薬剤師約290名、看護師約85名を輩出、多くは学位を有し、或いは専門医・専門看護師の資格を獲得した世のリーダーとなる方々で、国内外の各地で活躍しています。【図10】に示しますように、本学法人は医薬系の医療人を育成し、全ての医療で社会に貢献する社会の公器として位置付けられており、その立場は年々社会で高まりつつあります。その活動は、THE(タイムズハイヤーエデュケーション)から発表された「THEインパクトランキング2024」の結果にも現れており、本学はSDGs3(健康と福祉)にエントリーし、世界大学ランキングで1498大学中29位、国内大学で2位という高い評価になりました。本ランキングは国連の持続可能な開発目標(SDGs)に照らして大学を評価する唯一のグローバル・パフォーマンス・テーブルで、SDGsに貢献する上での包括的な卓越性を評価しています。

引き続き、法人の質の高い継続に主眼を置いて、教職員にはSSD(自己研鑽)の実践とインテグリティの涵養を促し、魂を入れた教育・研究、高度・安全医療の実践、ガバナンスの担保、及び財政の好循環に力を注ぎなが

ら成長してまいりたいと思います。

今後共、本学法人は更なる充実と成長を目指すべく、2025年の法人スローガンを1.スマートワーク・堅実経営と温かい大学病院づくり、2.病院新本館及び第1研究館の開院と本格稼働、3.三師国家試験合格率と大学進学率の向上、の3項目を掲げて、全教職員が力を合わせて活動してまいりますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

仁泉会諸兄の今年のご健康と益々のご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

大阪医科薬科大学
学長 佐野浩一

仁泉会会員の皆様、初春のお慶びを申し上げます。旧年中は、母校に温かいご理解とご支援を賜りありがとうございました。本年も倍旧のご高配を賜りますようお願い申し上げます。



昨年元日には能登半島地震が起きましたにもかかわらず、新春のお慶びを申し上げ失礼いたしました。印刷の都合上、止むを得ぬこととは申せ、お詫びいたします。無常の定めとお許し下さい。また、その後、能登半島においては復旧もならぬまま洪水の被害があり、被害に遭われました方々には心よりお見舞申し上げます。

無常の定めは由々しい出来事だけではありません。母校のキャンパスは発展に向けて著しい変化を遂げつつあります。昭和の中頃に竣工し、多くの仁泉会の会員の皆様に様々な思い出を残した学生会館と職員会館が撤去され、そこに死因究明等推進基本法に基づく死因解明のための施設と病態モデル研究のための施設が新築され、本年7月に完成する予定です。これが稼働しはじめますと研究2号館と実験動物センターが撤去され、開学当時の面影を残す旧別館(国の登録有形文化財)が前面に姿を現すこととなります。



旧学生会館

また、分割して建築しておりました病院新本館のB棟(南側部分)が竣工し、病院新本館が完成いたします。本館の南側部分には外来と病棟のほか、薬剤部や放射線治療施設があり、7号館の改修が終わりますと、ほ

ぼすべての診療施設がそろいます。次に、6号館を撤去して、大講堂と病院の管理部門を入れる新管理棟の建築を行い、その後に南側に残すすべての病院の旧棟を撤去して病院の整備が完成し、本部キャンパスの姿は大きく変わります。



新学生会館

このようなハード面での変化に加え、昨年、ご紹介いたしました参加型臨床実習や大学設置基準の改正に基づく幹事教員制度の導入をはじめとする専門教育の強化などソフト面での変化も著しく、新たな医学教育の発展に向かって無常を感じる年明けを過ごしております。

このような変化の背景のひとつに想定を上回るスピードで進む少子化があります。2018年に提案された中教審の「2040年に向けた高等教育のグライドデザイン」は2040年の18歳人口が88万人まで減少することを前提としていましたが、実際には、2022年の出生数すなわち2040年に18歳となる人々の数は77万人と推計を11万人も下回る想定外の減少であったため、文部科学省が急遽2024年度から2028年度を私立大学の集中改革期間と位置付け、時代と社会のニーズに対応する私立大学等への転換を支援することとしています。本学は、医療系の学部のみで大幅な定員割れを来すとは思われませんが、学生の質が大きく変化することとなります。今までと同じ教育方法が通用するとは限りません。入試制度の工夫に加え、新しい教育方法の採用が必要になります。幸い本学は、全国で唯一、私立大学等改革総合支援事業の4タイプ5項目全てが採択される実質的な力を有する日本最優の私立大学です。本年もその実力を活かして、国際的視野に立った良質の教育・研究・診療を通して、至誠仁術を体現する医療人の育成に励みますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとってよい年となりますよう祈念して新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

東日本支部 支部長
中嶋秀人（学37期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の先生方には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2024年、日本におけるAI技術の進歩は社会のさまざまな側面で大きな影響を及ぼしました。その中でも生成AIの進化が目玉され、特にChatGPTをはじめとする高度な言語モデルが教育、医療、ビジネス分野で広く活用されるようになってきました。私自身はまだ使いこなせていませんが、原稿の誤字脱字のチェック、スピーチやメールの文章の校正に使ったり、英語文献の内容の解説にも用いたりしています。文献の解説では、わからない箇所についてさらなる説明を求めることもでき、自分の理解が正しいかを確認したりすることもできて役に立っています。しかし、時にその説明内容が間違っていることもあり、ChatGPTの言うことを鵜呑みにはできません。内容の確認は必須で注意が必要です。また、最近では発表や講義のスライドに挿入するイラスト、たとえば患者さんのイメージなど作成できないかと試していますが、程遠い場合もあり、その場合は再度いろいろなプロンプトを指示すると作成し直してくれるのですが、思い通りにならず繰り返すとかなり時間が潰れます。ちなみにこの挿入図は、「2024年の日本を象徴するイメージを作成して」とのプロンプトに対して作成されたものです。2024年の日本のパリ五輪・パラリンピックでの活躍と、



それに伴う感動を表現したイメージで、文化やクリーンエネルギーなどの技術的進歩も融合して希望に満ちた1年の象徴と説明されました。少し違和感もありますが、即興で作成してくれますので、使いこなすことができれば有効に活用できそうです。AI利用における倫理的課題や誤用のリスクも議論されていますが、ChatGPTは医療現場での診断サポートや研究データの解析、患者向けの説明資料作成に寄与し、医師や研究者の業務効率を向上できると思いますので、正しく上手に活用できるようになりたいと思っています。

さて、昨年11月17日に私の出身教室の大阪医科大学旧第一内科の同門会である紫水会総会がホテルグランビア大阪で開催され参加しました。大澤仲昭名誉教授、花房俊昭名誉教授、また木村文治功労教授（学27期）を始めとする神経内科メンバー、さらには同期の武内徹先生、池田宗一郎先生、吉田麻美先生にもお会いでき、大変懐かし楽しいひと時を過ごすことができました。写真は同期一同です。今回の総会では大阪医科薬科大学内科学講座内科学IV専門教授を務めている武内徹先生から、「リウマチ診療の新たな潮流」という演題で素晴らしい特別講演をしていただき、リウマチ診療における最新の知見と武内先生が率いるリウマチ膠原病グループの発展と業績を知ることができました。一方で、昨年は第一内科同門会メンバーの篠田恵一先生（学26期）と杉野正一先生（学28期）が逝去されました。お二人の先生には第一内科入局時からご指導を受けて神経内科医として育てていただいたことに加え、第一内科の中心メンバーとして教室と関連病院の発展にも貢献されてこられましたので本当に残念でなりません。篠田恵一先生と杉野正一先生には御礼と感謝を申し上げますとともに御冥福をお祈りします。



東日本支部は、昨年6月8日に東京国際フォーラムの東天紅で令和6年度東日本支部総会を開催しました。総会の内容は副支部長の井利雅信先生から大阪医科薬科大学仁泉会ニュース第55巻第5号に報告させていただきましたが、安藤嗣彦仁泉会理事長（学20期）と内山和久医学部学部長（学32期）の両先生にお越しいただき、大学の現況や進行中の病院新本館建築プロジェクト、創立100周年に向けた取り組みなどを伺うとともに、楽しく華やかな懇親の機会を共有することができました。今年は6月7日土曜日に同じく東京国際フォーラムの東天紅で令和7年度東日本支部総会を開催させていただき予定です。東日本支部の皆様にはあらためてご案内差し上げますので、ご参集を賜りたくお願い申し上げます。引き続き副支部長の井利雅信先生と協力して仁泉会東日本支部の発展に努力する所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

長野県支部 支部長
高島俊夫（学21期）

仁泉会の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

大阪から遠く離れた長野県の仁泉会会員数は10数名と決して多くありませんが、長野県医師会活動に於いては、学29期の野呂敏夫先生が長野県医師会副会長を、学14期の宮沢健先生が長野県医師会裁定委員長を、学21期の高島俊夫が長野県医師会参与、松本市医師会顧問を務める等、仁泉会会員の活躍が目立っています。

さて、2024年には「医師の働き方改革」が開始されました。「医師の働き方改革」は医師の長時間勤務を改善するとともに目的の1つであると思いますが、現実的には簡単に解決できない問題も多いと思います。

我々松本市医師会が中心となり20年前に立ち上げて、現在では松本市民はもちろん地域の住民にとって無くてはならない存在となっている、松本市小児科・内科夜間急病センター（以下急病センター）もその1つだと思います。1年365日19時から23時まで小児科医と内

科医が毎日診療しているため、松本市内の開業医だけでは手が廻らず、近隣の市町村の開業医、松本市内の病院の勤務医、信州大学病院、長野県立こども病院の勤務医に急病センターに出務してもらってようやく診察医を確保している状態です。

もし「医師の働き方改革」のために病院から急病センターへ医師の派遣が無くなれば、高齢化が進んだ開業医だけで急病センターを365日全て診療を行うことは不可能と考えられます。元々2次病院の負担軽減のために立ち上げ、松本圏内の住民、診療所、2次病院にとって無くてはならない存在となっている急病センターを崩壊させるわけにはいかないのです。新年早々に適さない話題で申し訳ありません。本年もよろしく願い致します。

新春のご挨拶

静岡県支部 支部長
吹田浩之（学36期）

新年、明けましておめでとうございます。旧年は記録的な暑い夏とそれに続く秋は夏日がくりかえされました。体調を崩された会員の先生もおられたかもしれません。ご健勝をお祈り申し上げます。

気温が一向に下がらなかった影響で、昨年は富士山の初冠雪が11月7日と異例な遅さでした。面白いことに静岡市では前日の11月6日に冠雪が見られましたが、初冠雪と認定されませんでした。不思議に思い調べたところ、初冠雪の発表は山梨県の甲府地方気象台が行う事業だったのです。初冠雪の定義は「8月1日から翌年の7月31日までに山麓の気象官署から見て山頂付近が初めて積雪などで白く見えること」だそうです。ニュースで見聞きする「平年より〇日早い」や「〇日遅い」この基準もわかりました。富士山の初冠雪の平年は1981年～2010年の間の初冠雪を観測した日から算出して10月2日となっており、昨年は初冠雪が11月7日でしたので、平年より36日遅いということになります。

初冠雪とは別に「富士山初雪化粧宣言」と言うものもあるようです。これは山梨県富士吉田市の富士山課が独自に確認しているもので、2006年から発表されています。富士山はすっぽりと雪の帽子をかぶっているほうが、素敵です。冬は大気が透き通り、富士山がより美しく見えます。ぜひ、寒い時期に静岡市に観光にいらしてください。お茶や山葵、マグロやカツオも美味しいです。

本年が東海大震災や富士山噴火のような大きな災害がなく平和で、会員の皆様のご健勝で過ごせる素晴らしい一年になりますように祈念して筆をおきます。

新年のご挨拶

**仁泉会大阪府支部連合会 会長
霜野良一（学 28 期）**

新年あけましておめでとうございます。昨年は正月早々に自宅マンションのソファでうとうとしていたら、少し揺れを感じたので、テレビをつけると能登半島で巨大地震が発生していました。女性アナウンサーの「津波がきます。早く高台に避難して下さい」と何度も絶叫する声が今でも耳にこびりついています。翌日には日航機衝突炎上事故がありましたが、乗客乗員全員無事ということで、奇跡の脱出劇として世界に配信されました。また、宮崎での地震後は南海トラフが発生する可能性があるとのことで、我が家でも防災グッズを色々と買い集めました。夏は酷暑で外出する気になれませんでした。

しかし、悪い事ばかりではなくパリオリンピックでは柔道、フェンシング、レスリング、スケートボード、体操、陸上、やり投げ、乗馬など数え切れないぐらいの多くの選手が活躍して楽しませてくれました。そして、最もワクワクさせてもらったのが、ドジャースの大谷翔平選手の活躍です。ホームラン・盗塁の50—50の達成及びワールドシリーズでの優勝と何度も同じシーンを見ました。その他自民党総裁選挙、衆議院総選挙、アメリカ大統領選挙もあり、1年中話題に事欠かない年であったと思います。

さて、仁泉会大阪府支部連合会としては、コロナ禍もほぼ治まり、2か月に1度の理事会、5月に支部長会、11月には学術講演会を開催しました。また、新年会、夏季懇談会は難波の鳥よし本店で、安藤理事長、薬学部同窓会役員の方をお招きし、色々情報交換をいたしました。実際の活動としては、ホームページの開設、メーリングリストの作成、近隣支部の合同懇親会など会員相互の融和を促進し、会費納入率の向上を図ってきました。そして、阿倍野区支部長で府連・本部の理事であられる福本敏子先生（学24期）の発案でなかなか予約が取れない産業医講習会を仁泉会会員優先で行うことになり、初回は今年2月8日（土）に開催する運びとなりました。今後は年2回の開催を予定しています。

最後に私事ですが、診療所を建て直すことになり、

昨年7月末で一旦閉院となりました。今年8月次男を院長として新規開業する予定です。私としては無職となり、毎日のんびりというかブラブラして過ごしています。運動不足になるので週1〜2回ジムで約1時間ウォーキングマシン、筋トレをしています。

二回り目をどう生きるか

**西区支部 支部長
浅野彰彦（学 32 期）**

夫婦ともに還暦を過ぎて船旅を楽しむようになった。昨年の9月に「さんふらわあ、秋のデイクルーズ」という大阪南港を正午に出港して明るい間に瀬戸内海の風景が楽しめるというプランに参加した。秋晴れというより暑いほどの日であったが瀬戸内海の島々や三つの大橋のダイナミックな景色を堪能できた。その旅の始まり出港して直ぐに目についたのが今回の万博のシンボルというべき木造の大屋根リングであった。一時は開催も危ぶまれた万博もいよいよ数か月後には始まるのか、と思うと同時に思い出が蘇ってきた。

昭和33年（1958年）3月14日生まれの私にとって、1970年の大阪万博での一番の思い出は、アメリカ館の月の石ではなくフランス館の香水であった。コンパニオンが少年のハンカチに一滴垂らしてくれた香りが脳に刻まれている。一方、小学1年生だった東京オリンピックの記憶は、カラーテレビに映し出された日の丸の赤である。日本選手団の入場行進での日の丸の赤は、私の視覚の記憶のナンバー1かも知れない。嗅覚と視覚という脳神経の1番と2番の記憶は強く残っている。

7年前、60歳を迎えた際に「還暦なんて実感がわからない」と思っていたのに、そこからわずか数年後に「オリンピックも万博も二度目の開催か」と感慨にふけるのであるから自分ながら勝手なものである。当時は「最も晴天の確率が高い10月10日を開会式」として、以後は祝日となって運動会などが行われる体育の日として親しまれていたのに、いつの間にか10月の第二月曜日に変更され、気がつけば「スポーツの日」と名称まで変えられたのは誠に残念である。いまや孫の小学校の運動会は平日開催となってしまっている。

東京デイズニーリゾートに行った妻が、リゾートラインというモノレールが周囲を一周していて便利だと言う。1970年の万博の時にも会場を一周するモノレールがあった

よね、と言っても怪訝な顔をしている。乗り物に興味がないからなのか2歳年下なだけでも見えていた景色が違うらしい。

年初から昔話は止めにして二周目の人生のテーマを考えることにしよう。三回目の五輪を目指して長生きを目標にするのはどうだろう。50年後と仮定しても120歳を目指す必要があるが、それは人間の限界に近い。そもそも50年後に我が国が再び五輪や万博を開催できる国かどうか分からない。ならば体調を整えて楽しい船旅のプランでも練るのが丁度良いのかもしれない。

謹賀新年 — 70年大阪万博懐古 —

**港区支部 支部長
奥村隆司（学 31 期）**

新年明けましておめでとうございます。先生方に於かれましては健やかに新しい年をお迎えした事をお慶び申し上げます。今年巳（蛇）年です。蛇は脱皮を繰り返すことより復活と再生していくイメージから医療、治療、再生のシンボルともされています。WHOのロゴマークにも蛇が描かれています。我々医療人にとっていい年であることを期待します。

さて今年は大阪・関西万博の年であります。万博といえは、70年大阪万博の太陽の塔が浮かんできて、「こんにちは〜こんにちは〜世界の国から〜」の三波春夫が歌うメロディーが頭の中で聞こえてきます。いかにも昭和的なりズムで当時の記憶が蘇ってきます。日本初アジア初の国際博覧会であり高度経済発展時期もあって日本全体熱狂的なブームで延べ約6400万もの来場者がありました。当時私は中学生で数回行った記憶はありますが、具体的に何を見たか、どんなことに感動したかは覚えていません。ただ、会場の広さ、人の多さと行列、見たこともないデザインのパビリオン、近未来的な服を着た綺麗なコンパニオンのお姉さんは記憶にあります。アメリカ館、ソ連館には入らず（実際には入れず）にあまり人がいない小さなパビリオンで満足感を味わっていました。万博はテーマを決めて先端科学技術が社会全体にどのように寄与するのかを皆で考える博覧会で大阪万博では「人類の進歩と調和」をテーマとし太陽の塔がその象徴を示すものでありました。無線電話（携帯電話の

原型)、テレビ電話などが紹介されたのはよく周知されていますが、動く歩道、リニアモーターカーや電気自動車も未来の乗り物として紹介されていました。意外なものとして、缶コーヒー、ヨーグルトが大阪万博を契機として広まったようです。大阪・関西万博に関して賛否両論はありますが、私は単純に好奇心で楽しみたいと思っています。この万博からどんなものが出てくるのか予想するのも興味のあるところですが、キャラクター「ミャクミャク」はご存知と思いますが詳細はご存知でしょうか。細胞と水がひとつになったことで生まれた不思議な生き物で、赤い部分は「細胞」青い部分は「清い水」でいろんな形に変形できるよう。それを理解すると変なデザインも理解でき受け入れることが出来ます。大阪医大仁（細胞）泉（清い水）会も脈々（ミャクミャク）と伝統を引き継ぎ、時代に応じた変化をして更なる発展を期待します。それにしても人間自動洗濯機はどないになったんやろ。

新春に思うこと

**浪速区支部 支部長
浪速区医師会 会長
久保田泰弘（学 36 期）**

2024年5月25日より有田繁広元会長の後、会長職を拝命しました久保田泰弘です。

新制医師会の発足後、他地区よりも6年遅れの昭和28年に「社団法人浪速区医師会」が設立され上原正成先生が初代会長となりました。私で15代目となります。

医師会は、2024年5月時点では会員180名（A63名 B116名 C1名）で構成されています。

浪速区の人口は令和5年度の統計では81,855人となりおり最近の平均増加率は2.9%です。

浪速区には総合病院として愛染橋病院、なにわ生野病院、富永病院。介護系に強いなにわ病院の4病院があります。

浪速区医師会では、独自の医療システムが2つあります。1つ目は、2009年に誕生した救急対応システムとしての「ブルーカード」。現在も継続しており、いまでは近隣の17病院の協力のもとに運用しています。これにより救急車なしでも、夜間でも病院に行きやすくなり、また救急搬送時間も短縮しております。システム運用のために、100回を越える病診連携委員会（参加病院と浪速区医師会の協議会）を開催してきました。

2つ目は、多職種連携システムの「Aケアカード」。これも通常のSNS形式のチャット機能だけでなく、今後の医療DXを見据えての薬剤情報や検査情報がすべてデジタルで取り込まれており、今後の情報（3文書6情報）にも役立つものと思われます。こちらは、浪速区内の団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、介護事業者）と行政協力のもとで2016年より在宅連携協議会として運用しているシステムです。

医師会としてこれまでコロナワクチン集団接種、個別接種、発熱外来にも積極的に協力してきました。

乳幼児健診、学校医活動、介護保険事業、産業医活動、予防接種事業、特定健診、休日急病診療所勤務など地域住民の健康安全に積極的に取り組んでいます。

大阪市内の医師会は、災害対策、救急医療、感染症対策、在宅医療（第8次医療計画を含む）、病診連携等を一つの行政区で完結するのは、不可能だと考えています。なので二次医療圏（ブロック別）ごとで、トータルとして協議し、問題解決していく事が急務だと考えています。

また、医師会理事者と一般会員との間に、かなり距離があると考えています。それが医政にも影響しています。当会では、地域医療の明日を考える会として、新規開業10年目までの先生方を中心に交流会を立ち上げる事にしました。最近の若い先生方は医政に興味のない人が多く、様々なゲストを招待し、討論する会です。

今後、財務省、厚労省の言いなりにならず、国政にも物言える役員を育てるためにも頑張って参りたいと思う所存であります。今後ともよろしく願い申し上げます。

病院40年の歩み ～チーム医療の mission

生野支部 支部長

医療法人穂翔会 村田高穂（学 22 期）

仁泉会の同窓の皆様、新年おめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

2024年4月、村田病院は開院40年を迎えました。今日まで脳神経外科病院として地域医療を継続できましたことは、皆様のご支援のお陰であり感謝申し上げます。ここでは、私たちの「チーム医療」のmissionを総括します。

Mission1「親切的な医療」

「親切的な医療」とは、読んで字の如く「思いやり深く丁寧な医療」です。

開院時の私たちの合言葉は、「自分の家族や大切な人を診てもらいたいと思える病院」であり、脳神経外科の診療が「きつい・汚い・危険」の3Kの仕事と嫌われる中で、スタッフは「病める人のために自分の幸せをシェアする思いやりの医療」を継続しました。

2005年回復期リハビリテーション病棟を開設し、救急診療と急性期診療における「断らない病院」、急性期から回復期リハビリテーション診療連携における「患者さんと医療者が治療目的を共有できる病院」、退院後の生活期ケアにおける「面倒見の良い病院」をモットーとしました。

2015年開院30周年にあたり、医療者の credo 「あなたの喜びが私の喜びです、あなたの人格を尊重します、あなたと誠実に向き合います」を作成し、「親切的な医療」の理念共有を行いました。

Mission2「安心・安全な医療」

「安心な医療」とは、「患者さんが安心して受けることのできる医療」です。

1世紀前すでに、脳外科の父 Harvey W Cushing 博士は、「医療は病気や臓器を診るだけでなく、患者さんの心身と生活環境を考えて行うべきである」という教を残されました。

患者さんは、いつも肉体的のみならず精神的な不安、生活や仕事の心配を抱えながら医療を受けていることを考えるべきであり、私たち医療者はそのような患者さんの不安や心配と向き合い一緒に医療を行うという構えが求められます。

「安全な医療」は、チームで横断的に行う「医療安全活動」です。

医療事故がゼロとなることはありませんし、この3年間の感染症禍で学んだ医療感染対策は必須です。

私たち医療者は、科学的真実に基づく情報共有を行い、「安全な医療」を励行することが求められます。

Mission3「良質な医療」

「良質な医療」は、チームを構成するスタッフ個々の自己研鑽と情報共有により築かれます。しかしながら、組織化されたチームでは、スタッフが組織に埋没するという現象を生じることがあります。

故 Jhon F Kennedy アメリカ大統領の演説に、“Ask

not what your country can do for you. Ask what you can do for your country!” 「国があなたに何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何ができるかを問うて欲しい」という一節があります。

良質なチーム医療は、スタッフ一人ひとりが自己研鑽し医療レベルアップを図ることが、スタッフ間で正しい情報共有を行うことにより創造されます。

“Ask not what your team can do for you. Ask what you can do for your team!”

今年も、私たちの目指すチーム医療が、「親切的な医療、安心・安全な医療、良質な医療」をmissionとして継続されることを期待します。

2025年1月

世界は

東大阪支部 支部長

大西洋一郎（学 25 期）

2024年7～9月期インテルは2.5兆円の赤字を出し、ダウからはじかれた、かわりにダウにNVIDIAが入った。NVIDIAはGPU専業で戦略がすぐれている。大学から一般ユーザーまでがそれを使用してアプリをくめるように全世界発信した。これが結局あたった。これで世界中がNVIDIAのGPUを使用するようになった。GPUでは一強になってしまった。ウクライナは金もない、国民も4000万人から3000万人もきろうかの状態で、欧米は必要な武器の供給をやっていない。ゼレンスキーは激怒しながら考えた。「我国には世界に誇れるIT技術者がいる。これとドローンをくみあわせればハッキングしにくいアプリとプロペラからジェットエンジン使用で2000km以上独自で飛ばせる。これならドローン操縦者も比較的容易に作り出せるし、やろうと思えばモスクワを飽和攻撃できる。中国は100歩進んでいるが世界一安いドローンを製造できる。6兆円を世界に売っている。でもウクライナだってできる。量産できれば世界が欲しがる磨き上げたドローンを3兆円で売り出すことだ。世界中が欲しがらるだろう。あと1年いや2年、世界がウクライナを助けてくれれば、ロシアも弱ってくる。それまで何とか助けてくれ」でもしかし、イランドローンも劇進化、超低空、500kg爆弾、秒速進化時代である。ドローンの飽和攻撃で通常戦争でもはや世界は変わってしまったのである。大阪医科薬科大学が2025年進化発展しますように。

新年のご挨拶

高槻支部 支部長

保田 浩（学 31 期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年の新年挨拶にも書かせていただきましたが、少子高齢化が予想以上に進んでいると感じております。当方小児科であるため生後2ヵ月から予防接種をしております。そのため出生数が少ない事を日々実感しております。産科の先生方も実感されていることと思います。

診察ですが去年の下半期はマイコプラズマ感染症が大流行しました。開業（今年で30年）以来これ程流行した記憶がありません。キットも無くなった中、近隣の内科の先生の協力ではほぼ全例レントゲン検査をしました。特徴的な所見の肺炎を併発していることが多かったですが、入院はほとんどなく適切な抗生剤で治す事ができました。昨今の小児科では予防接種のおかげで、麻疹、風疹、水痘などは全く診ることもなく、また点滴や入院を必要とする児も減っております。この事は大変良いことと感じております。今年はどうのような感染症が流行するか予想がつかず「感性を研ぎ澄まして診察する」にはやや歳も取り、気力・体力も落ち、頭の回転もついてゆかない歯がゆさを感じております。もともと「カツオ・マグロ体質」なので、できるだけ診察は続けてゆきたいと思っておりますが、ずっと泳いでいる訳にもいかず静止する時間も作ってゆきたいと思っている次第です。

さて、仁泉会高槻支部におきましては、去年6月にホテルアベストグランデ高槻にて総会と講演・懇親会を執り行いました。安藤仁泉会理事長、植木理事長、内山医学部長、勝間田病院長ら多数の来賓も来られ、仁泉会の現況、大学の近況、国家試験合格状況、病院新本館概要などを説明していただきました。講演は一般消化器外科教授李先生にお願いいたしました。懇親会も大変盛り上がり、今年も6月に行う予定です。

末筆になりましたが、仁泉会の皆様の益々のご活躍、ご健康をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

病院長を退任しました

大阪医科薬科大学仁泉会 学内支部長
 麻酔科学教室教授
 南 敏明 (学 36 期)

あけましておめでとうございます。本年もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月31日で病院長2期4年を全ういたしました。仁泉会の先生方には多大なるご支援を賜り、ありがとうございました。病院長任期の2020年4月からの4年間はコロナ禍の4年であり、病院建築の4年でした。またこの間に、病院機能評価機構の受審や医師の働き方改革などいろいろと経験しました。多忙な中で唯一の気分転換は阪神タイガースの試合観戦でした。いろいろな方から気分転換にどうぞとチケットを賜り、ありがとうございました。他大学の教授と阪神タイガースの前トレーナーと3人でコロナ禍の合間に甲子園で観戦後に記念写真を撮影してもらったところ、その前トレーナーの方がSNS にあげられた写真を見た本院のスタッフから「内緒にしておきます」と言われ、全くプライバシーがないと感じましたが、阪神タイガースの試合観戦を指摘されるのであれば本望かとも思いました。

病院長在職中はあまりにも会議が多すぎるので、事務方との会議の打ち合わせは一切しない、事前に資料も見ない、で会議の5分前に会議室で真剣に資料を確認して時間を確保しました。あまりの忙しさに体重が6.5-7キロ痩せてiPhoneの顔認証が出来なくなるほどでした。また学会参加もほとんど出来ず、日本専門医機構認定麻酔科専門医の更新はできませんでしたので、2025年4月からは専門医ではない教授として働きます。

麻酔科・ペインクリニックでは、救命救急センター開院による24時間緊急手術対応、こどもの痛み外来の開設、内臓神経ブロック・脊髄鎮痛の緩和ケアから在宅医療への促進など医局員の頑張りが大きかったと思います。特に、新型コロナウイルス感染症第4波では大阪府全体が危機的状況に陥り、大阪府からさらに重症患者受け入れの強い要請がありました。2021年5月1日～5月16日の間はICUだけではなくMFICUをコロナ感染専用ICUとして運用し、麻酔科医が24時間常駐し対応して貰いました。医局員に感謝、感謝です。

2027年に迎える大阪医科大学創立100周年記念事業、病院新本館建築は「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げて、工事が順調に進行して

いるところですが、2016年3月に開院した中央手術棟では、医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・中央材料室・物流・施設・事務によるチーム医療が実践され、24時間断らない手術室を運営しています。2022年7月には病院新本館A棟が開院いたしました。最新設備を導入した12階建てで、その1階には三次救急機能を有した大阪医科薬科大学病院救命救急センターが新設されました。24時間断らない救命救急センターと24時間断らない手術室との連携はスムーズで、超緊急手術が施行されています。また、2025年5月30日には病院新本館B棟が竣工いたします。病院新本館B棟の目玉は、サポートエリアと臓器別に内科系診療科と外科系診療科が同一エリアで診療するユニット制です。是非、見学にお越しください。

17

貝塚市支部 支部長
 川崎康寛 (学 35 期)

あけましておめでとうございます。COVID-19についてはまだまだ油断してはならないと思いますが、ようやく先が見えてきたように思います。今年は大波を越えて、今後のクリニック経営をどうするかをしっかりと考える年になるのではと考えています。また、医師会や学会において、コロナ禍を経て一般化したリモート会議やWeb研修会というような利器を活用しつつ、顔を合わせる機会をどう作っていくかということも考える時期になっていると思います。

さて、今年の地元医師会の会長を拝任しました。昭和22年の設立から77年、数えれば第17代会長ということのようです。そんな話を聞くと、今までそれほど気にしていなかった17という数字があちこちで気になるようになりました。

まずは、SDGsです。「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」として、17の目標が上げられています。我々に関係するものとしては、先ずは「3. すべての人に健康と福祉を」でしょうか。具体的な内容については、ユニセフのホームページに載っていますが、周産期死亡の減少、感染症死の減少などをはじめとして保健サービスの向上が上げられています。日本ではほぼ達成されている事項ですが、懸念されるのはオーバードーズを含む薬物濫用あたりではないでしょうか。もともと未成年者の喫煙防止・禁煙支援について

は取り組んでいましたので、今後も若年者を中心に薬物濫用も含めて取り組みたいと思います。

スポーツの世界でも17が躍動しています。パリ五輪男子バスケットボールで活躍した河村勇輝選手はバスケット最高峰リーグのアメリカのNBAに挑戦しています。グリズリーズで背番号17を得て、出場機会も増えているようです。一方、日本プロ野球の背番号17は、阪神の青柳晃洋投手、ロッテの佐々木朗希投手、ソフトバンクの有原航平投手、日本ハムの伊藤大海投手あたりが名前の通ったところでしょうか。今年も青柳選手、佐々木選手はアメリカ大リーグに挑戦するようです。その大リーグで背番号17と言えばドジャースの大谷翔平選手です。2024年の活躍、いえ大活躍は記憶に新しいところです。この活躍はチームの同僚との協力、チームスタッフや家族の支援なくてはなしえなかったと思います。医師会でも会長だけが突っ走っても前に進みませんし、理事や事務局の支えがあってこそなのでしょう。今年もあちこちで17を気にしながら、医師会活動に注力していきたいと思います。

新春の御挨拶～京都仁泉会の2024年度活動報告

京都仁泉会 会長
 河野龍而 (学 35 期)

仁泉会会員の皆様、明けましておめでとうございます。令和6年5月26日に令和6年度の仁泉会定期総会がホテルグランヴィア京都にて完全対面形式で開催されました。京都での開催でしたので京都仁泉会の総会も兼ね、出席者は69名で無事に本年度の仁泉会定期総会・京都仁泉会総会を終えることができお礼申し上げます。

総会では、安藤理事長、植木理事長、佐野学長、内山医学部長、勝間田病院長から母校の現状と将来展望をお聞きすることができました。詳細は令和6年7月1日発行の大阪医科薬科大学仁泉会ニュースをご覧ください。総会終了後、5年ぶりの立食対面形式での懇親会が開催され会員相互の親睦を図ることができ、和気藹々の雰囲気の中で最後に学歌を斉唱し盛会のうちに終了いたしました。

8月25日には「音楽の夕べ」を開催でき37名の会員

が参加されました。11月16日には京都仁泉会学術講演会を開催し26名の会員が参加されました。大阪医科薬科大学眼科学教室教授の喜田照代教授に「糖尿病性網膜症・黄斑浮腫の治療と病診連携」という演題で御講演を賜りました。講演して頂きました先生、御参加頂きました会員の先生方にも心から感謝を申し上げます。

また、竹中 洋先生 (学23期) が瑞宝中綬章を受章されました。先生の受章を会員一同心からお喜び申し上げますとともに今後ますますのご活躍を祈念いたします。

仁泉会の第一の目的は、大阪医科薬科大学と附属病院における医学の教育・研究及び学術交流の振興を助成することです。また、仁泉会の第2の目的は会員相互の親睦を図り、もって医学の教育・研究及び学術の発展に寄与することです。今年度も仁泉会が一丸となり、母校の発展と拡大に向けて頑張ってまいりましょう。

最後に、仁泉会のさらなる発展と皆様のご健康とご多幸を祈願し、私の新春のご挨拶とさせていただきます。



新春のご挨拶

宝塚支部 支部長
辰井 光 (学32期)

新年のご挨拶を申し上げます。皆様はどんな年を迎えられましたか？

身の回りではマイナンバーカードが不振にあえぎ、電子処方箋の導入もハードルが高い状況で、個人的には今年上半期には目の前の至近距離に医師会への届出もなく私と同じ整形外科を含む医療モールができる予定などちっとも明るい話題がありません。そんな中、正直に手放しておめでとうと言える心境ではありません。

こんなに後ろ向きなことばかり申し上げると仁泉会会員諸氏には響きだと思われるので、敢えてスポーツの話題に転じることにします。周知のとおり野球界では大谷翔平の大活躍と日本サッカーが勝ち進んでお次のW杯では優勝はともかくベスト8が期待できる水準に上がってきたこと、それと新春の大学駅伝が私の目下の楽しみであります。

決して優秀なランナーとは言えませんが自身も細々とランニングに取り組んでおります。走っているときは雑事を忘れて青息吐息で走り終えたら、えも言えぬ達成感が得られます。多少はランニングの効果もあってか（他は持病のせい）開業当初の頃からは体重も15kgほど減りました。久しぶりに当院を受診した患者様からは「院長は何かご病気ですか?」と勘繰られることも多いですが（そういう患者は私に気遣って決して面と向かっては申されず、そっと声を潜めてパラメディカルに訊かれるわけですが）別の機会には久しぶりに受診した人から「前と同じ先生ですか?」と言われたことがあり、それにはさすがに苦笑せずにはおられません。まあものは考えようで人間、見かけだけではなく別人に生まれ変わったつもりで謙虚に対応すれば許されるか?と一人ほくそえんでおります。

自慢ではありませんがDMをはじめとして生活習慣病もちで両眼の白内障（左はその前に網膜剥離も）手術もしておりますが、主治医の先生方にも恵まれて日々プレのセンサーをつけながら診療とランニングにいそしんでおります。

アメリカの次期大統領にトランプ氏が選出され、わが兵庫県知事には齋藤氏が返り咲きました。先が見通せない混んとした時代になりました。いろんな意味で既存のマスコミではなくSNSが幅を利かす時代になりました。

政治の話は、議論が白熱しますが発言に気を付けないとなかなか難しい側面もあるので敢えてコメントは致しません。私の場合、SNSは好きな音楽や料理、スポーツ・紀行など楽しいことだけ見聞きするにとどめて決して深入りしないように心がけています。ストレスとは無縁の生活を目指していると早く呆けそうな気もしますが、このましばらくのらりくらりと行こうと思います。

冒頭に述べた医療事情や政治についてもよい兆しはありませんが、来年もしくは再来年から振り返ると実際にはこれよかった、あれも良くなったと言えるかもしれません。そういう消極的な将来に希望を求めつつ、粛々と生きようとする今日この頃です。

新年のご挨拶 —R6年度仁泉会 和歌山県支部総会の報告—

和歌山県支部 支部長
湯川裕史(学29期)

新年あけましておめでとうございます。

昨年（R6）の下半期は、記録的な猛暑と、あちこちでの豪雨など、異常気象が続いた一年でしたが、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年も昨年同様新年のご挨拶とともに、仁泉会和歌山県支部総会のご報告を申し上げます。

R6年度仁泉会和歌山県支部総会は、令和6年11月9日（土）にホテルアパローム紀の国にて開催されました。今回は21名の会員の出席をいただき、大阪薬大和歌山県支部「紀薬会」役員の3名の方にも出席いただきました。

総会ではまず、昨年より支部長を拝命いたしました湯川（学29期）より挨拶をさせていただき、本日出席のお礼と、大阪医科薬科大学の同門の先生方のご活躍、大阪薬大和歌山県同門会「紀薬会」との交流の件など、今後の本支部の活動について話しました。

本年度に1名の会員の方のご逝去の報告をいただきまして、一同で黙祷を捧げました。

総会議事では、村上浩一先生（学32期）より庶務報告があり、会員の現状などの報告を頂きました。新たにご開業されました津田祐子先生（学50期）が紹介され、

津田先生にご挨拶をいただきました。また大阪薬科大学和歌山同門会紀薬会からご参加の3名の役員のご紹介がありました。会計報告は塩崎 憲先生（学42期）よりいただき、吉田隆昭先生（学36期）に監査をいただきました。そして来年度の総会は令和7年（2025年）11月8日（土）に決定されました。

例年、会員の先生方のご活躍の話題となりますが、日赤和歌山医療センターでは吉田副院長を始め松谷泰男先生（学37期）が乳腺外科部、岡智子先生（学50期）が血液内科部長の要職を担われておられることは昨年にもご報告いたしましたが、本年も松谷良清先生（学32期）が有田医師会長、津田祐子先生ご開業と、ご活躍の情報が届きます。

本年の特別講演は、大阪医科薬科大学麻酔科学教授南敏明先生（学36期）より、「大阪医科薬科大学病院の現状と痛みのお話」というテーマでご講演を賜りました。まず病院新改築の当初より建築に携わっておられ、中央手術棟新築から始まり、時系列に本学病院の変遷をイラストや航空写真も織り交ぜてきれいなスライドでご提示ご説明していただきました。さらにライフワーク？と銘打たれました「痛み」について、これも懇切丁寧に、ご自分の「痛み」の体験も織り込んでいただきながらわかりやすく講演いただきました。さらに緩和ケアについての現状もお話いただき、これは現場の我々にとってもすぐにも参考になるものでした。

会場を変えての記念写真撮影の後、いよいよ懇親会は、

南教授や紀薬会の役員の方々にもご参加いただき、田伏俊作先生（学20期）の乾杯のご発声で開宴しました。ここここで会話や笑いが絶えないまま会の盛り上がりも最高潮となり、恒例の自己紹介では、仕事や体調などの近況報告に加えまして、今取り組まれていること、皆さんに披露報告したいことなどのスピーチが続きます。今回も大阪医大の学歌斉唱で懇親会もお開きとなりました。今年も「ひとたび一堂に会せば身も心も一つになれるのは同門会のすばらしいところ」という思いを常に心に抱きながら、次年度の総会や何らかの企画に向かっていきたいと思っています。

仁泉会会員の皆様には、本年もどうぞお健やかにお過ごしいただく事を祈念いたします。

ご出席の先生方：（敬称略）

南 敏明(学36期)、古田浩太郎(学14期)、田伏俊作(学20期)、西岡昭規(学23期)、橋本忠明(学25期)、湯川裕史(学29期)、柳川百代(学31期)、松谷良清(学32期)、村上浩一(学32期)、吉田隆昭(学36期)、松谷泰男(学37期)、藤田定則(学38期)、木下博之(学41期)、丸山晋佑(学41期)、塩崎 憲(学42期)、津田祐子(学50期)、家田淳司(学53期)、山本直之(学53期)、片岩真依子(学54期)、平松政高(学55期)、横矢悠太(学61期)、大森陽子(学73期)

（紀薬会より） 岡崎弘記、抜井栄二、和田恵理子

以上25名



後列左より 塩崎、横矢、平松、山本、家田、丸山、木下、抜井（紀薬会）和田（紀薬会）
中列左より 片岩、大森、柳川、津田、藤田、松谷（泰）、吉田、村上
前列左より 岡崎（紀薬会）、橋本、田伏、湯川、南、古田、西岡、松谷（良）

新春のご挨拶

岡山県支部 支部長
小出尚志（学28期）

新春の候、皆様におかれましてはご健勝にて輝かしい新年をお迎えのことと存じます。岡山支部を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

さて、巳年は、実を結ぶ年、そして新しいことが始まる年と言われますが、2025年問題や2040年問題を視座に2025年は大きなターニングポイントと思います。

社会は、昨年、コロナ禍を超えて「平時」に戻り、そして医療に影響を及ぼす最大の関心事も「少子高齢社会」の深化という本筋の命題に戻りました。2025年は、団塊世代の全員が後期高齢者の仲間入り果たし、持続可能な新たな医療介護提供体制である地域包括ケアシステムの構築の最終章と位置付けられ、さらに2040年に向けて今後急速に進む労働人口の減少を踏まえての賃金の上昇を伴う人材確保や働き方改革、医療DXやイノベーションの推進などが大きな課題となってきます。

このような状況の変化の中で、多くの医療機関が持続可能な経営を模索しつつ、地域医療の担い手としての使命を果たし続ける努力をされています。同窓生の皆様におかれましても、日々の業務の中でこのような課題に直面され、試行錯誤されていることと拝察いたします。このような時代だからこそ、同窓会の存在意義が改めて問われていると感じます。同じ学び舎を共にした仲間が、知識や経験を共有し合い、互いに支え合える場がますます重要になると思います。

しかし、岡山支部では昨年も支部例会や交流の場を設けることができず、皆様と直接お会いする機会を失っていることを深くお詫びしなければなりません。コロナ禍を経て会員情報の更新が叶わず一からの出直しが必要な状況にあります。本年は、支部例会の再開を目指すとともに、若い世代を含めた多くの会員の皆様が参加しやすい新しい形の活動を模索し、支部活動の活性化に努めてまいりたいと考えておりますので、ぜひとも関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

終わりになりますが、本年が皆様にとりまして、健康と幸せに満ちた実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年の挨拶

香川県支部 支部長
大谷昌裕（学40期）

新年あけましておめでとうございます。

2024年4月、前支部長石田達也先生（学28期）から支部長を引き継がせて頂きました。仁泉会会員の皆様には本稿をもってご挨拶とさせていただきます。

まずは、自己紹介をさせていただきます。私は1991年3月に本学を卒業し母校の一般消化器外科教室へ入局しました。岡島邦雄教授に師事し、厳しく素晴らしい教育を受けました。素晴らしい本学で初期研修を開始し、岡島教授の下で教育を受ける機会を得られた事について本学に感謝しています。2001年に本学にて学位を頂き、2003年から縁あって香川県に職場を移しました。そして現在まで香川県予防医学協会にて診療所長を務めさせて頂いています。香川県には島田眞久先生（学14期）が過去に副学長を務められた香川大学医学部があります。近年では田中嘉雄先生（学28期）や堀井泰浩先生（学37期）が教授としてご活躍されるなど本学とは決して縁が希薄な地域ではありません。その中で私も2013年から現職の傍ら香川大学医学部臨床教授として学生教育の機会を頂戴し、将来の医療に役立つ人材育成のため地域貢献をさせて頂いています。現職において組織のリーダーであるために、また教育の現場に立たせて頂く身として自己研鑽の必要性を痛感し、2016年50歳時に経営学を学ぶため再受験し、香川大学地域マネジメント研究科に入学しました。MBAという資格を取得できました。学びは現職のみならず学生教育にも生かすことが出来ており、医学教育の中にも経営学は一部でも取り入れられれば人材育成に役立つと考えています。その後コロナ感染症の流行期を経て、支部会にて役員交代という案件が持ち上がり支部長先生からご指名頂きお役を継承することとなりました。

支部長就任後の活動についてですが、私の目標は同窓会OB会の更なる発展であります。大学は学部合併により大きくなったのですが、それに伴いOB会も古い単科大学としての活動に留まらず学部間の垣根を取り払った活動を行うことが大学の価値向上に寄与すると考えています。仁泉会本部の方のご協力の下、薬学部支部会との繋がりを作ることが出来たことが2024年の成果です。

徐々に大学だけでなくOB会の醸成にも努め、本学および仁泉会のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

仁泉会会員の皆様には今後ともご指導ご鞭撻願えれば幸いに存じます。今年も会員の皆様にとって良い一年でありますように。



ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思います。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。
- 広告に関して

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。
(内容により有料の場合があります)

事務局編集係

受章報告

令和6年秋の叙勲において下記の先生方の受章が判明いたしました。
母校として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

瑞宝小綬章

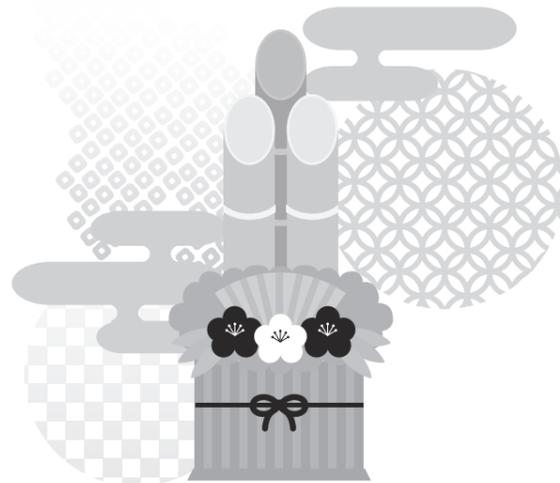
近森正幸先生（学部21期）保健衛生功労

瑞宝双光章

松岡伸二先生（学部19期）学校保健功労

旭日双光章

富永俊彦先生（学部29期）保健衛生功労



受賞報告

令和6年11月3日開催の大阪府医師会創立77周年記念式典において、星賀正明先生が医学教育功労者の表彰を受けられましたので、ご報告申し上げます。

大阪府医師会医学教育功労者表彰に際して

この度、去る11月3日に開催されました大阪府医師会創立77周年記念式典において、「医学教育功労者」として表彰を賜りました。さらに、翌11月4日の大阪府医師会医学会総会では、記念講演として「これからの循環器医療：DXとチーム医療の進化」と題した特別講演を拝命し、多くの先生方にお話しする機会をいただきました。

この表彰は、大学・病院における医学教育や研究活動に長年尽力するとともに、大阪府医師会の学術活動や生涯教育の推進に寄与した功績を評価いただいたものです。本賞は昭和52年から始まり、本学からは河野公一名誉教授、黒岩敏彦名誉教授に次ぐ3人目の受賞となります。このような光栄ある表彰を受けることができましたのは、仁泉会の皆様方のご指導と温かなご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

今後もこの名誉に恥じぬよう、一層研鑽を重ねてまいります。引き続き、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

星賀正明（学34期）



受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。
FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

学会報告 ● ● ●

第20回 日本中性子捕捉療法学会 (JSNCT) 学術大会開催報告

文責／大阪医科薬科大学 放射線腫瘍学教室 教授
関西 BNCT 共同医療センター センター長
二瓶圭二（特別期）

この度、第20回日本中性子捕捉療法学会の大会長を拝命し、本年7月26日-27日に本学看護学部講堂にて開催いたしましたので報告いたします。ご存知のようにホウ素中性子捕捉療法（BNCT：Boron Neutron Capture Therapy）は、2020年6月に局所進行又は局所再発頭頸部癌に対する保険診療が始まり、現在本学と南東北BNCT研究センターの2カ所で実施されています。特に本学は加速器 BNCT を実施する国内唯一のアカデミアであり、その臨床、研究、教育の中心となるべく全学を挙げてBNCTを推進しています。

日本中性子捕捉療法学会(JSNCT: Japanese Society of Neutron Capture Therapy) は、日本中性子捕捉療法研究会として発足し、2003年に第1回学術集会（現本学BNCT共同臨床研究所所長小野公二先生大会長）が開催されました。2006年に日本中性子捕捉療法学会と改名され、以降毎年学術集会を開催してきました。さらに、本年1月には一般社団法人となり、今回は法人化後の最初の学術大会となりました。

今大会のテーマは「Integration of Research for Patients」といたしました。中性子捕捉療法(NCT)は、医学、物理学、生物学、化学、薬学、工学など多岐にわたる分野の叡智を結集した学際的な領域です。各分野における先人の献身により、BPA(Boronophenylalanine)の開発、熱外中性子の利用、加速器の開発など、いくつかのブレイク・スルーを経て2020年に保険医療となりました。一方で、保険診療の開始から4年が経過し、さらなる適応腫瘍の拡大、中性子利用効率の改善、照射方法の多様化、ホウ素濃度と腫瘍線量の解明、新規薬剤開発など、多くの課題が浮き彫りになる等、BNCTは最先端でありながらもまだまだ発展途上の医療です。患者に提供可能な保険診療となった今、BNCTに関わる全ての研究者が「For Patients」という原点に立ち返り、同じ方向に向かって議論を深めることにより、それぞれの研究成果を発展的に統合することが希求されています。今回のテーマにはそのような思いを込めました。

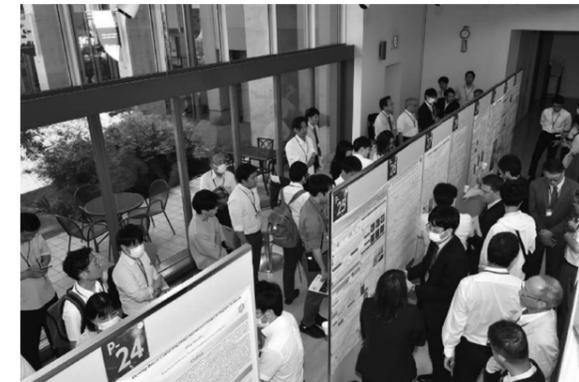
プログラムは、学会テーマを冠した3つのシンポジウム「Integration of Research for Patients: From Clinical Medicine」, 「Integration of Research for Patients: From Pharmaceutical Sciences」, 「Integration of Research for Patients: From Medical Physics」を中心に、生物学、線量測定等の他分野を含む一般口演11セッション(43演題)、ポスターセッション(32演題)、理事長講演等で構成され、「For Patients」すなわち、いかに患者に届く治療にするかを意識した活発な質疑応答がなされました。



会場の様子（本学看護学部講堂）

参加者は、放射線腫瘍医の他、頭頸部外科医、脳外科医、医学物理士、技師、看護師、薬学者、化学者など多分野から、また海外からの参加も含め、300名近くになりました。本大会翌日の7月28日には、高槻城公園文化芸術劇場に場所を移し、「BNCT市民公開講座」を開催しました。関連企業の代表者、各施設の医師から、一般の方々に対してBNCTの歴史や現状について、説明がなされました。

今後、適応疾患拡大やBNCT普及を推進するには、各診療科、関連分野の関与が極めて重要と考えています。



ポスターセッション

ぜひ本学の臨床医、研究者の皆様に興味を持っていただき、積極的に関与していただければ幸いです。今後もBNCTの推進により、本学のがん診療の発展に貢献していく所存です。

最後になりましたが、本大会開催にあたり過分なご支援を賜りました仁泉会の皆様、また、本学開催についてご尽力いただいた理事長、学長、看護学部長をはじめ、すべての本学関係者にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。



市民公開講座（高槻城公園芸術文化劇場）



スタッフ一同

学会報告

第7回日本法医病理学会 学術全国集会を終えて

文責／第7回日本法医病理学会学術全国集会顧問
鈴木廣一（学29期・昭和55年卒業）
（大阪医科薬科大学名誉教授）

この度、第7回日本法医病理学会学術全国集会を2024年9月20日（金）、21日（土）の2日間、京都市の株式会社島津製作所本社メインホールにおいて開催いたしました。（図1）開催にあたっては、大阪医科薬科大学仁泉会からのご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。日本法医病理学会は、法医病理学に関する研究及び診断の進歩向上を図ることを目的に、1993年（平成5年）に法医病理勉強会として発足し、翌1994年に法医病理研究会に名を改め、四半世紀にわたり活動を続けてきたのち、2017年9月に学会化しております。本学会では、「現実を直視し、未来を正しく予見する」を



図2：学術集会会場入り口で（左より、近藤稔和理事長、一人置いて佐藤貴子会長、秋野公造先生）

理念として掲げ、「法医病理学に関する研究及び診断の進歩向上を図ること」を目的とし、目的達成のため年1回の学術集会、セミナーの開催、学会誌「法医病理」の発刊、社会に向けて提言等の活動を続けております。

近年、性犯罪に対する処罰意識の高まりを受け、性犯罪に対する法整備が進んでまいりました。このような状況下、昨年には某芸能事務所による性暴力被害が広く社会に知られることとなったほか、性暴力に関する刑法の改正が行われ、「不同意性交罪」として同意がない性行為は犯罪になり得ることが明確に示されました。そこで本学術集会では、最近の社会情勢に鑑み、「性暴力被害を考える」と題したシンポジウムを企画いたしました。シンポジストとして大阪府警捜査第1課性犯罪担当の坂本千奈津補佐には、「警察の性犯罪事件への取組み」、大阪府警科学捜査研究所の志摩典明主席研究員からは「薬物分析の立場から～犯罪の痕跡を捉える～」、京都大学名誉教授の金子周司先生からは「睡眠薬と事故・犯罪：薬理学の観点から」、元最高検察庁検事で昭和大学法医学講座教授の城（タチ）祐一郎先生からは「デートレイプ・ドラッグなどの薬物による性犯罪をめぐる諸問題（検察の立場から）」とそれぞれ題して、ご講演をいただき、近年大きな社会問題となっている、デートレイプドラッグ被害や性虐待等について知見を広めるとともに、性暴力対策の現状や問題点などについても議論を行いました。また基調講演として、参議院議員秋野公造先生には「日本法医病理学会の先生方との歩みについて」と題したご講演をいただきました（図2）。さらに、



図1：学術集会ポスター

法医病理学に加えて法医中毒学、法医遺伝学、死後画像診断情報など法医学全般についての多くの研究や鑑定経験の発表をしていただき、対面での活発な深い議論を進めました（図3）。

学会当日は秋とは思えない猛暑に見舞われましたが、両日で延べ200名を超える皆様のご参加を頂き、総演題数26題（基調講演1題、若手研究者報告1題、シンポジウム4題、一般講演20題）というこれまでの倍近い発表を頂きました。特にシンポジウムでは、時間を超過しての総合討論が行われ、多くの参加者からは「非

常に興味深い発表であった。」「今後の業務や研究に大いに役立つ発表であった」などの好評を得ました。今回このような学術集会を成功裏に終えることができましたことは、年会長である法医学教室の佐藤貴子教授はもちろんのことですが、学術集会顧問として開催をサポートいたしました私自身にとりまして大きな財産になったと思っています。

最後になりましたが、今回の学術集会に際してご支援を賜りました大阪医科薬科大学仁泉会会員の皆様に、本号の誌面をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

第7回日本法医病理学会学術全国集会日程

令和6年9月20日（金）

- 〈島津製作所 本社1F 115号室〉
- 11：15～12：15 第29回理事会
- 〈島津製作所 本社メインホール〉
- 12：00～ 受付
- 12：30～12：35 開会の挨拶
- 12：35～12：55 総会
- 12：55～13：15 2022年度若手研究助成報告
村瀬先生（香川大学）
- 13：15～13：25 休憩
- 13：25～14：35 シンポジウム1
（性暴力被害を考える）
- 14：35～14：40 休憩
- 14：40～16：10 シンポジウム2
（性暴力被害を考える）
- 16：10～16：15 休憩
- 16：15～17：15 一般演題（1～5）
- 17：15～17：20 休憩
- 17：20～18：20 一般演題（6～10）
- 18：20～18：30 第30回理事会（新理事会）

- 〈フォーチュンガーデン京都〉
- 19：00～20：30 懇親会

令和6年9月21日（土）

- 〈島津製作所 本社メインホール〉
- 8：30～ 開場
- 9：00～9：30 基調講演 秋野公造先生
- 9：30～9：45 令和6年能登半島地震
被害地域への派遣について
- 9：45～10：00 表彰式
- 10：00～10：05 休憩
- 10：05～11：05 一般演題（11～15）
- 11：05～11：10 休憩
- 11：10～12：10 一般演題（16～20）
- 12：10～12：20 閉会の挨拶、次期会長の挨拶

図3：学術集会日程表

学会報告 ● ● ●

第42回日本小児心身医学会 学術集会を終えて

文責／国立成育医療研究センター総合診療科
永井章（学38期）

この度、2024年9月20日～22日に第42回日本小児心身医学会学術集会（於：東京代々木オリンピック記念青少年センター）を無事終えることができましたのでご報告申し上げます。本大会では「小児心身医学の現在の知・実践～未来へ」をテーマに掲げさせていただき、日頃、小児の心とからだの医療・診療・研究に懸命に従事する小児科医、心理士などのよい学びの場になること、そして仲間・同志のつながりの場になることを願いながら準備、そして開催させていただきました。大会長講演では、「小児心身医学における明確な視点をもって診療する重要性について」のタイトルで、バイオサイコソシアルの要素を複合的に絡む慢性頭痛において“痛覚変調性疼痛”などの新しい病態に基盤を置きながら、最終的には本人の成長、発達課題を克服することを目標に、寄り添いながら診察する重要性についてお話させていただきました。また私が成育医療研究センターに来

るきっかけを作ってくださったジョン高山先生をお招きして、chronic painでの米国と日本の診療／医療システムの差異また共通する部分に関してお話をしていただきました。その他に思春期での頻度の高い健康問題である、“朝起き不良”を包括的な視点で考えるセミナー、また本学会からの小児摂食障害ガイドライン改訂3版の要点解説、学校との連携、医師心理士協働セミナー、そしてこれまで学術集会でもテーマにならなかった慢性疾患や障害をもっている子供たちの兄弟たちに焦点を当ててのセミナーなども開催致しました。会場には例年を上回る844名の参加者があり、各会場で活発な質疑が行われておりました。また今回の本学会の学術集会で初めてチャイルドフレンドリースペースを作り、子育て中の方の参加が少しでもできるようにという試みもさせていただき、とても助かったという声もいただきました。

本学術集会では、大学医局の同門で、成育医療研究センター新生児科医長の和田先生に学術集会事務局に入ってください、いろいろ助けてもらいました。また同門からたくさんの先生方のご参加があり、励ましの声もいただきました。今回の学術集会を通じて痛感したことは人とのつながりの重要性で、そのつながりに感謝する貴重な機会になりました。私は大学の医局を離れ、東京にでてきて20年も経ちますが、こうした中で同門の先生方、仁泉会から多くのご支援をいただけたことを心より御礼申し上げます。

今後ともご指導の程、お願い申し上げます。



大学の心身症グループと一緒に

第42回
日本小児心身医学会
学術集会

●会期
2024.
9/20(土)→22(日)

●会場
国立オリンピック記念
青少年総合センター
(代々木)

●大会長
永井章
国立成育医療研究センター
総合診療科 診療部長

●副大会長
呉宗憲
東京医科大学小児科・
思春期科学分野

現地開催

**小児心身医学の
現在の知・
実践～未来へ**

●大会事務局
国立成育医療研究センター 総合診療科

●運営事務局
第42回日本小児心身医学会学術集会
運営事務局

株式会社JTB 西日本MICE事業部
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2丁目1番25号JTBビル6階
TEL: 06-6210-5608 E-mail: jpp2024@jtb.com

●大会ウェブサイト
<https://jssp2024.jp>



第42回日本小児心身医学会チラシ

令和7年度仁泉会学術集会助成申請について

令和7年度（2025年4月1日～2026年3月末日）において、仁泉会会員が主催する学会に対する助成申請の受付を**2024年12月1日**より開始しています。（提出期限：令和7年1月末日）申請を希望する会員は、規程をご一読の上、申請書を事務局までご提出下さい。申請書は仁泉会ホームページからダウンロードいただくか、事務局までお申し出下さい。

仁泉会事務局

jimu@jinsenkai.net tel:072-682-6166 fax:072-682-6636

仁泉会ホームページ [大阪医科薬科大学仁泉会](#) [検索](#)

支部だより ●●

京都仁泉会 秋の講演会 報告

文責／北岡治子（学28期）

京都仁泉会では、春・秋年2回の講演会開催が恒例でしたが、今年度は春の総会時の講演会の実施がなかったため、2024年11月16日に、ホテルオークラ京都で久しぶりの講演会の開催となりました。今回は、2021年に母校で女性初の臨床教授とられた、大阪医科薬科大学眼科学教室教授の喜田照代先生をお迎えして、対面形式での講演会となりました。

まず、京都仁泉会会長河野龍而先生の開会挨拶で始まりました。今回は、喜田教授が当日、日本臨床眼科学会（於京都国際会館）でイブニングセミナーを担当されており、時間的に厳しいスケジュールでご無理を申しした関係で、北岡が「血糖自己測定におけるICTの活用」と題して話題提供を行い、その後、無事到着された喜田教授に、「糖尿病網膜症・黄斑浮腫の治療と病院連携」の御演題で特別講演を賜りました。眼科分野の講演は当会では珍しいものでしたが、「眼循環」を専門に診療・研究を行ってこられた先生から、糖尿病網膜症・黄斑浮腫を中心に、最新の検査・診断法、分類、治療などについて、わかりやすくお話し頂き、一同非常に新鮮な思いで聴講致しました。活発な質疑応答もあり、また、改めて眼科との病院連携の重要性を感じ、今後の臨床

に大変つながるのもであったと、深く感銘を受けた講演会でありました。

講演会終了後、久しぶりに円卓形式で懇親会が行われました。岩野正宏先生の司会で、森本副会長の挨拶で始まり、今回はアルコール類もでて、各テーブルで大変会話が弾み、やはり同門のつながりの大事さを感じた講演会でした。

参加者（24名）：（敬称略）

島田真久(学14期)、今村喜久子(学17期)、吉川順介(学19期)、稲掛英男(学20期)、尾崎信之(学20期)、舟木亮(学22期)、富岡暉(学22期)、大藪博(学22期)、森本博子(学24期)、野田春夫(学25期)、浅野明美(学25期)、石原正(学25期)、北岡治子(学28)、蘆田潔(学28期)、萩原暢子(学28期)、寺崎文生(学31)、河野龍而(学35期)、岩野正宏(学35期)、瀧井道明(学36期)、寺村和久(学37期)、柏木元実(学39期)、大谷良(学40期)、岡本文雄(学40期)、塩見聡史(学44期)

共催：株式会社三和化学研究所



糖尿病網膜症・黄斑浮腫の治療と病診連携

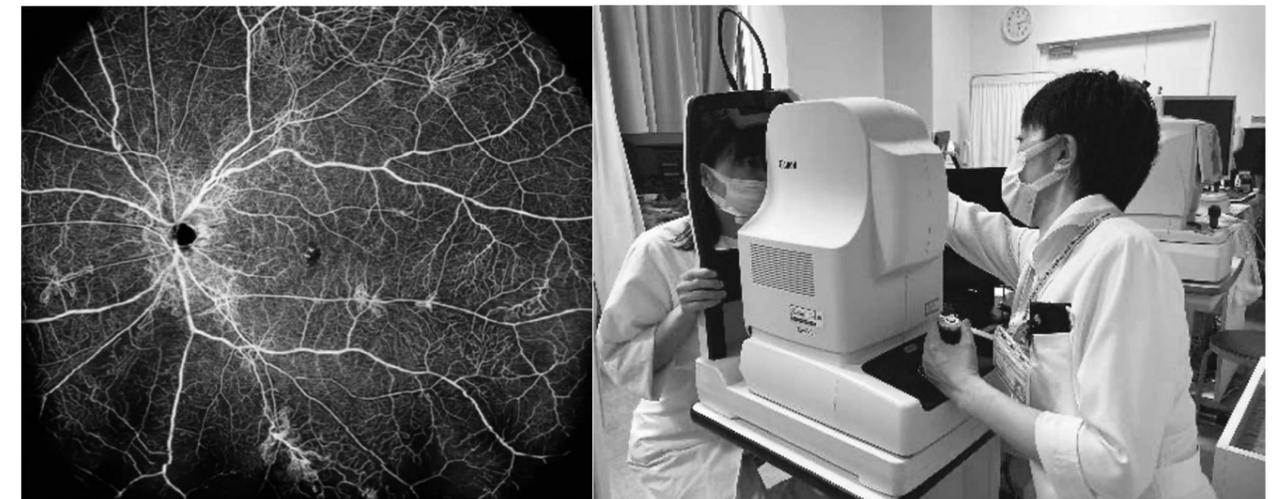
大阪医科薬科大学医学部眼科学教室
喜田照代

私自身は大学院生のときに興味をもったテーマ、「眼循環」を専門に診療・研究を行ってまいりました。現在、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症、眼虚血症候群など眼底疾患の治療を専門としています。これらの疾患の患者数は高齢化社会に伴い益々増加しています。本講演では、内科をはじめ他診療科の先生方に変えてお世話になっております糖尿病網膜症・黄斑浮腫に絞り、お話をさせていただきました。

2020年日本眼科学会雑誌に糖尿病網膜症診療ガイドライン（第1版）が掲載されました。糖尿病網膜症の治療は、国際重症度分類に基づいた病期分類に準じて詳述されており、メディカル治療として網膜光凝固、また、黄斑浮腫を伴う症例に対しては、血管内皮増殖因子（VEGF）阻害薬の硝子体注射やトリウムシロニア

セトニドのテノン囊下注射が挙げられます。近年、患者さんの Quality of Vision (QOV) は向上し、治療の選択肢も増えました。しかしながら、抗VEGF療法だけで黄斑浮腫が治癒することが困難な症例も少なからず存在します。一方で、画像診断機器の発達によりメディカル網膜疾患の病態解明が急速に進みました。例えば、今まで見えなかった黄斑部の所見が光干渉断層計（OCT）で病理組織のように非侵襲的に見えるようになり、また眼底造影検査や広角眼底カメラ、OCT angiographyなどと組み合わせることで眼科臨床医としての診断力も向上し、患者さんへの病状説明やインフォームドコンセントにも役立っています。

人生100年時代、患者さんの良好なQOVを維持するために、眼科治療に加えて全身管理も大切です。眼科は想像以上に他診療科との連携が必要であることが多く、他診療科との連携なくして、患者さんに対する最善の医療やQOVの向上に貢献できません。本講演では、欧米や本邦からの論文報告や今まで自身で行ってきた基礎・臨床研究を通じて、先生方の日常診療に少しでもお役に立てるようアップデートできればと思います、お話をさせていただきました。



広角OCTA画像と撮影風景：網膜症の新生血管が描出（造影剤を使用せずに撮影可能）

支部だより

中浪天合同親睦会 (中央区、浪速区、天王寺区)

文責/久保田泰弘 (学36期)

2024年11月16日、なんばパークス7F 「旬和席うおまん」にて上記3区の合同親睦会が開催されました。実は、仁泉会本部以外に大阪府連の活動認知度は決して高くなく、私自身も36期同期の森川先生に、府連の理事になるよう勧められる前は、その存在すら知りませんでした。2018年春に仁泉会大阪府連の会長が学28期の霜野良一先生になり、中央区東の長野支部長、港区の奥村支部長とともに、大阪府連の会費納入率が3割り程度に留まっている点も踏まえ、広報委員会が設置されました。

北区、住吉区、住之江区、阿倍野区、港区など、活発に活動しておられる地区もございますが市内は、ほとんど活動できていないのが現状でした。

2019年に、第1回目の浪速区、中央区、西区の合同親睦会が開催されましたが、翌年コロナ禍となりその後4年間は、親睦会は開催されませんでした。

そして今年、大阪市内は、まだ運営母体が機能していない地域に関しては2次医療圏別にまとまっていくのがいいだろうということになり、今回の合同親睦会の運びに

なりました。

親睦会には、霜野会長、天野府連事務長にも参加してもらい賛助金も頂きました。最初に、霜野会長の挨拶から始まり、乾杯の音頭は浪速区高20の徳田修先生(97歳)にお願いしました。徳田先生は、今から25年前に浪速区医師会長で、私が入会したおり様々な相談に乗っていただいた恩師です。

中央区東は学32期長野文昭先生、中央区南は学49期佐久間航先生、天王寺区は学31期上田信行先生にまとめ役をお願いし、親睦会は、各地区テーブル別に始まり、参加者28名全員の挨拶を行ったあと、地域を超えての名刺交換、話し合いなどが行われあっという間の3時間でした。

中央区からは、中央区東会長の村野実之先生、今回、日本保守党から衆議院選挙に立候補しておしくも次点だった佐々木美礼先生を始めきぬがさクリニックの荘園雅子先生、心斎橋美容外科の米虫隆貴先生、ゴウクリニックの渡辺徹也先生、学56期の新規開業予定の篠原潤先生、浪速区からは、前支部長で在宅医療も積極的にされている橋村直隆先生、富永病院整形外科部長の大西宏之先生、今年6月に難波の駅前ビルで内視鏡専門クリニックを開業した奥久徳先生、天王寺区からは、糖尿病専門医の上田信行先生、リウマチ・膠原病専門外来で最近開業された東海奈央先生等に参加して頂き、歓談の時を過ごしました。

今後、様々な互いの広報ができるような環境を作っていきたいと考えています。



参加者

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 徳田 修 先生 (高20期) | 村野実之 先生 (学41期) | 荘園雅子 先生 (学49期) |
| 霜野良一 先生 (学28期) | 佐々木美礼 先生 (学43期) | 米虫隆貴 先生 (学50期) |
| 上田信行 先生 (学31期) | 佐々木 巖 先生 (学44期) | 瀬浦敏志 先生 (学51期) |
| 橋村直隆 先生 (学31期) | 山田勝彦 先生 (学46期) | 米田桂子 先生 (学53期) |
| 長野文昭 先生 (学32期) | 大西宏之 先生 (学46期) | 高井雅聡 先生 (学55期) |
| 渡辺徹也 先生 (学35期) | 原田知明 先生 (学47期) | 松村若菜 先生 (学56期) |
| 久保田泰弘 先生 (学36期) | 岡田 雅 先生 (学47期) | 東海奈央 先生 (学57期) |
| 久田洋一 先生 (学37期) | 洪 真紀 先生 (学48期) | 奥 久徳 先生 (学58期) |
| 小倉康晴 先生 (学38期) | 佐久間 航 先生 (学49期) | 白井俊方 先生 (学61期) |



支部だより

2024（令和6）年度 淀川区支部会開催

文責／淀川区支部長 熊野宏二（学39期）

令和6年10月26日（土）にリッツカールトン大阪にて大阪市淀川区支部会を開催しました。今回は御来賓として安藤嗣彦先生（仁泉会理事長）に御臨席賜りました。

当日は開業医の先生方だけでなく、淀川区内の医療機関で常勤・非常勤として御活躍されている勤務医の先生方にも御参加して頂きました。



御来賓
安藤嗣彦先生（仁泉会理事長 学20期）

支部会員：（敬称略）

- | | |
|-------------|-------------|
| 飯田紀彦（学20期） | 岡田健一郎（学45期） |
| 中川浩彰（学32期） | 増田大介（学47期） |
| 安田守孝（学34期） | 清水宏泰（学48期） |
| 熊野宏二（学39期） | 田原真由子（学58期） |
| 小森 剛（学39期） | |
| 松岡孝枝（学39期） | |
| 熊野久美子（学40期） | |
| 星 穰（学42期） | |

飯田紀彦先生より開会の御挨拶を頂き、安藤嗣彦先生より新病院B棟の建設等、母校の近況についてのお話を頂きました。（安藤先生と飯田先生は同期生で、開会前より二人で会話が盛り上がりおりました。）

安田守孝先生に乾杯の御挨拶を頂き、御出席の先生方にお一人ずつ、学生時代の思い出や卒業後の進路等をお話して頂きました。本年6月の診療報酬改定についての話題も出ました。

約2時間の会でしたが、今年も、あっという間に時間は過ぎ、中川浩彰先生に閉会のお言葉を頂き、全員で集合写真を撮り散会となりました。

今後も毎年10月の第4土曜日に淀川区支部会を開催する予定です。多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

支部だより

仁泉会阿倍野支部開催報告

文責／二村吉継（学49期）

令和6年10月19日（土曜日）シェラトン都ホテル（大阪市上本町）にて阿倍野区仁泉会が行われました。阿倍野区で診療所を開業されている先生方、阿倍野区にお住まいの先生方、阿倍野区の中核病院である大阪鉄道病院でご勤務の同門の先生に加え、大阪医科薬科大学医局の先生にもお越しいただきました。当日はあいにくの雨模様ではありましたが、12名の先生が集い、和やかで有意義なひと時を過ごすことができました。

伊賀千洋先生の司会で福本敏子会長の挨拶を皮切りに、事業報告・会計報告・阿倍野区医師会報告・大阪鉄道病院報告の後、令和6年度決算及び令和7年度の予算・事業計画協議が行われました。

懇親会は森田眞照先生の乾杯の音頭でスタートです。シェラトン都ホテル自慢のコース料理を堪能しながら、恒例となっている近況報告が行われました。お一人ずつマ

イクを回しながらお話いただきましたが、ご自身の体のこと、患者さんのこと、病院の現状など話題が尽きませんが同門会ならではの、助け合いの相談の場ともなり、温かい交流が印象的でした。他科の先生方と気兼ねのなく意見が交わせるこの場は、恵まれた環境であることを改めて実感いたしました。

懇親会の最後には大阪医科大学学歌を全員で合唱し、集合写真の撮影をして閉会となりました。また来年も皆様と元気に再会できることを楽しみにしております。

- 参加者
- | | |
|-------|--------|
| 福本敏子 | （学24期） |
| 森田眞照 | （学28期） |
| 伊賀千洋 | （学29期） |
| 長田啓嗣 | （学31期） |
| 中野久美子 | （学34期） |
| 井上彰子 | （学44期） |
| 清水啓二 | （学44期） |
| 西口昌樹 | （学49期） |
| 二村吉継 | （学49期） |
| 鈴木倫雄 | （平21卒） |
| 中矢絵里 | （学55期） |
| 高木春花 | （平28卒） |



クラス会だより

大阪医大 47 同窓会 開催報告

文責／古林光一（学 21 期）

大阪医大47同窓会が、5年振りに開催されました、コロナの為に永らく開けませんでした。今年には生涯で一番暑い夏でした。11月3日（日）文化の日です。季節外れの920HPの大型台風が台湾に上陸し、日本に方向を変えて接近していました。11月2日は山陽新幹線も東海道新幹線も止まり、交通状況が危ぶまれましたが、翌3日は晴れてくれました。

脚の便の良いところと思い、7月31日に出来たばかりの、大阪ステーションホテルで開催しました、しかし、阪急で来ると、大阪駅の西の端で、旧大阪中央郵便局の後の、「KITTE」ビルの中にあるのですが、入り口が解りにくい、と不評でした。中は綺麗です。料理がうまいと一人褒めてくれました。でも高いです。幹事としては、

今回は別のところを選びます。私たちは、大阪医科大学教養学部が出来て2回生です。昭和41年100名入学、昭和47年87名卒業。仁泉会名簿で物故者14名、73名に同窓会の案内を出しました。31名参加、23名欠席。その他返事なし。岸田・近森両先生は仁泉会、脱会されており、案内が届いていませんでした。東京仁泉会は出席されていて、そこで古屋さんから同窓会のことを聞かれたようです。近森先生には連絡できませんでした。岡野・山田先生はご夫婦で参加、2回連続です。松崎先生は車椅子で親子参加、お出ましくい所、有難うございました。次回も参加宜しくお願いいたします。楽しい会でした。皆、齢をとりました。顔を見て解らない人がいました。昌子先生の首から腰迄全身脊椎固定はビックリ、感心しました（関西医大：齋藤dr施術）。外来をそのままやっておられます、スゴイ。2次会の設定が出来なくて申し訳ありませんでした。今年が最後かと思っていました、来年も11/3文化の日（月）、高槻で後藤・古林が幹事で同窓会を開きます。多数ご参集ください。予定を空けて下さいね。今回出て来られなかった先生も、顔を見せてください。ではまた来年、お達者で。



クラス会だより

学23期(昭和49年卒) 卒後50周年記念同窓会 「生きてるだけで丸儲け、 感謝、感謝の同窓会」

文責／幹事 梶野興三（学 23 期）

令和6年10月12日（土）グランヴィア京都ホテルにて昭和49年（学23期）卒後50周年記念同窓会を行いました。2020年から始まったコロナ禍を乗り越えた同窓生の5年ぶりの再会でした。49卒は卒業総数90名で68名に同窓会案内を郵送し、出席者26名、欠席者33名の返事を受け取りました。同伴者として6名のご夫人も参加されました。今回は記念すべき卒後50周年と言うことで、芸妓舞妓さんをお呼びし、思い出に残る同窓会を企画しました。司会進行は幹事の話術巧みな近藤敬一郎君にお願いしました。

開会はクラス代表として、私 梶野が開会宣言を行い、その後学歌斉唱、物故者19名への黙祷を行いました。そして50周年と言う記念の同窓会のお祝いとして、まず人間国宝の梅若実桜雪師の高弟である竹中正純君に

小謡「四海波」を披露していただき、次に京都宮川町の芸妓さんによる祝舞「寿三社」で盛り上げていただきました。

続いて開宴の挨拶・乾杯を前クラス代表で、昨春瑞宝中綬章をもらった竹中 洋君にお願いし、合わせてご夫妻に叙勲の花束を送り同窓生からのお祝いといたしました。そして同窓生全員が2、3分の近況報告をしましたが、皆話が長いため、誰も話を聞いていないように思われました。話はいくらでもするが人の話を聞けない、これは脳動脈硬化の症状ではないでしょうか。我々高齢者の反省材料にしたいと思います。同伴された夫人からは素敵なお挨拶をいただきました。最後に幹事の桜本邦男君から、「みんなの健康と活躍を願う」中締めのお暖かい挨拶で閉会となりました。

短い時間ではありましたが、誠に楽しい記念すべき50周年記念同窓会となりました。その後、2次会はほぼ全員でホテル2Fバー「オルビット」に移り、夜遅くまで歓談し思い出話に花が咲きました。ご参加の皆さま誠にありがとうございました。また集まりましょう。

同窓会参加者名（敬称略） 明石、井関、井上、岡村夫妻、奥谷、梶野夫妻、勝本、九谷、寿、小西（薫）、近藤、桜本夫妻、佐竹、新宅、竹中（洋）夫妻、竹中（正純）、田代、中田、西本夫妻、花本夫妻、益永、宮井、宮地、宮本、森、安井、難波

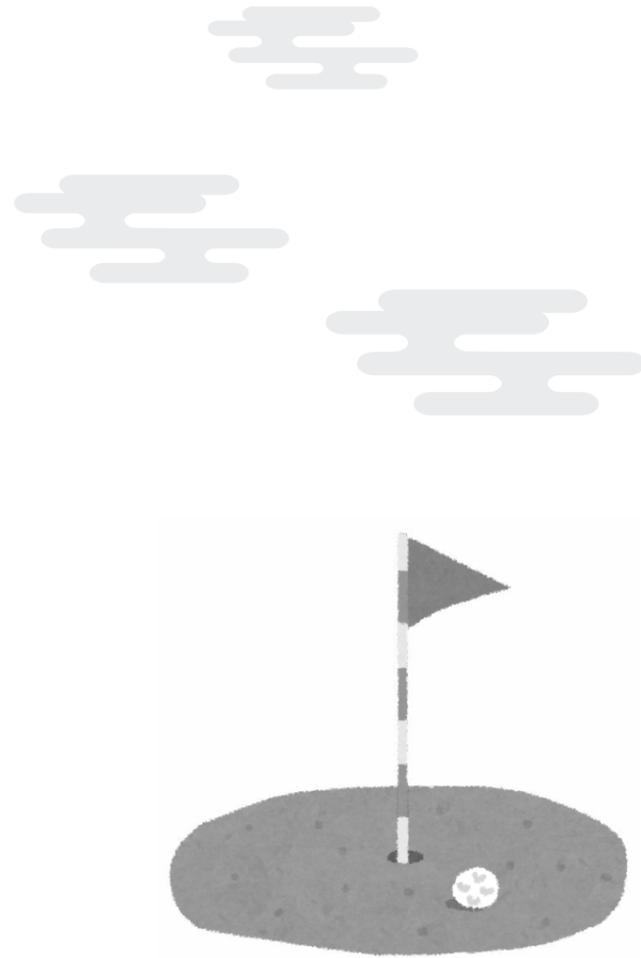


第85回49杯ゴルフ

文責／幹事 竹中正純（学23期）

令和6年10月13日(日) 秋晴れの好天の中、瀬田ゴルフコースの北コースで49杯を開催しました。このコースは11月3日(日)TOTOジャパクラシックで竹田麗央選手が6ホールにも及ぶプレーオフ、まさに死闘を制して優勝したコースです。最近のいろいろなスポーツにおける日本選手の活躍は、野球、サッカー、ボクシングなど世界を席捲しているように思います。本当にうれしい限りです。

さて今回の49杯は昨日の50周年記念同窓会の宴会の疲れか、普段の練習不足か、ハーフ50を切る人はなく、誠に残念な結果に終わりました。1位はグロス105の梶野香代子さんで、2～5位までは全てグロス104で、竹中（正純）、安井、中田、明石君、そして梶野、桜本君の順となりました。大自然の中、普段の些事を忘れ、白球を追い、適度に紫外線を浴び、森林浴もでき、プレーの間の楽しい会話やおいしい食事があり、こんな素敵なスポーツはゴルフ以外にありません。今春も49杯を予定しています。同窓生の皆さま、一人でも多くの参加を希望しています。



クラス会だより

2024 あかつき会報告

文責／石田博文（学24期）

令和6年9月29日インターコンチネンタルホテル大阪にて学24期同窓生のクラス会「あかつき会」を行いました。

卒後50周年の令和7年に行なう予定でしたが万博と重なり混雑が予想されるので1年早めて実施しました。

地元大阪でしたので参加者は36名と割合集まっていたのですが、前回から2年間の間に前田敏子先生、三村治先生が亡くなられて残念です。場所がグランフロント大阪の奥にありわかりにくかったのですがほとんどの皆さん集合時間に遅れずキッチリ集合され安堵しました。

集合写真撮影してから垣内会長あいさつで始まり黙とうをささげ、会食に移りました。会員の先生のお知り合いがいるとことで少しサービスメニューでした。

近況報告では、あらたに癌罹患者が数名でたり、勉強不足なので初耳の病名罹患の報告や医院の閉院、

病院から老人施設への勤務先の変更があったりと後期高齢期に入った事が感じられます。遠くから来た先生方にはもっと話していただきたかったのですが時間が短く申し訳無かったです、何とか時間内に終わり最後に次回担当を奈良の久保、古家、奥田先生方をお願いして快諾していただき終わりました。次回お会いできることを願っています。

参加者：(敬称略)

- | | | |
|-------|------|------|
| 芥川知明 | 喜多 徹 | 平田一郎 |
| 井口公雄 | 北 真行 | 福本健治 |
| 石田博文 | 北原義介 | 福本敏子 |
| 市原直子 | 北村彰英 | 古家 仁 |
| 今城 一 | 橋田輝雄 | 文 順永 |
| 大鶴 実 | 木村 隆 | 松永高晴 |
| 岡田茂樹 | 久保光彦 | 森本博子 |
| 奥田隆章 | 才田耕基 | 森本義康 |
| 垣内成泰 | 杉浦 誠 | 矢倉道泰 |
| 柿本祥太郎 | 玉城英子 | 山口基博 |
| 加藤佳典 | 西山和夫 | 吉矢健一 |
| 神田隆善 | 平川 賢 | 淀井省三 |



令和6年9月29日 あかつき会 同窓会 於 インターコンチネンタルホテル大阪

クラス会だより

学部28期（昭和54年卒） 女子同窓会旅行記

文責／萩原暢子（学28期）

昭和54年卒業の女子だけの同窓会を10月19～20日にかけて、4年越しに開催しました。当日は、好天に恵まれる予定でしたが、「雨女」の強力な力に負けて生憎の雨模様となり、秋雨に煙る道中となりました。それでも、久しぶりに出会えた喜びで笑顔が弾け、皆ハイテンションで旧交を温めました。



私たちは、大河ドラマで人気沸騰中の紫式部ゆかりの石山寺から三井寺を巡るコースを選び、観光に参加した8名でジャンボタクシーに乗り込んで、大津駅を出発しました。石山寺は平安時代の再建で、本堂までの長い階段を上ったところで、本堂入り口の右手に「珪灰石」という石灰岩が壁のように広がっているところがあり、この石の上にお寺があるということで、石山寺の寺名の由来となったとのことでした。その後、本堂に入り、33年ぶりの御開帳を巡りました。その中に、紫式部が使用したと



参加者(敬称略)：蘆田ひろみ、梶山加代子、北岡治子、小松原千鶴子、篠原淳子、鈴木由美子、武田京子、西松能子、萩原暢子、三宅直子、森田利江、吉矢尚子



伝わる硯が陳列されており、そんなに凹んでいることもなく、良い状態で保存されていました。その後、境内の「明王院」で開催されていた「光る君へ びわ湖大津大河ドラマ館」に行きました。ここでは、ドラマの概要から人物相関図や登場人物が紹介されており、衣装の展示や4Kシアターがありドラマの1シーンが上映されていました。



お隣の「世尊院」では「源氏物語 恋するものあはれ展」が開催されていましたが、さすがに時間がなくなってきたので、大急ぎでタクシーに戻りました。当初は予定していなかったタクシーの運転手さんの観光案内があり、説明や誘導をして頂き、迷わずスムーズに観光できました。これは、非常にありがたかったです。

次に一同は、三井寺に向きました。三井寺は絵本山園城寺とも言い、天台宗の宗門の総本山で、広大な敷地に13のお堂や寺院が建っていました。私たちは、「仁王門」から境内に入り「釈迦堂」から「金堂」へと進み、向かいにある「三井の晩鐘」では、御朱印を頂き鐘をつきました。とっても良い音色で、胸がスツとしました。それから「弁慶の引摺り鐘」を見て秋雨の中、参道を歩いて入り口の仁王門まで戻ってきました。



三井寺と紫式部との繋がりは、式部没後に父の為時が出家したことで知られています。こちらでも「紫式部と三井寺展」が開かれていましたが、一路宿舎の「花街道」へと向かいました。ここで、宴会からの参加者4名と合流しました。女子は13名中12名の参加となり、どうしても都合がつかなかった1名は本当に残念でした。

温泉でほっこりしてからの宴会では、美味しい夕食に舌鼓を打ちながら、アルコールも回って一気に学生時代にワープして、皆の近況報告に聞き入りました。全員が現役で仕事を続けていることも素晴らしいことで、それができる健康状態を維持できていることにも感謝の気持ちで一杯でした。レストランの奥の個室で宴会をしていましたが、気が付いたら22時近くになっていて、楽しい一時はあっという間に過ぎていきました。

翌日は、前日と打って変わって素晴らしい秋晴れでした。私たちは朝食を一緒に頂いたのち、次回も元気で再会することを約束し、三々五々散会となりました。皆が元気で再会できたことに心から感謝です。



クラス会だより

大阪医科大学 昭和59年卒業 学33期(燦々会)同窓会開催の報告

文責／清木康雄 (学33期)

大阪医科大学 昭和59年卒業の学33期(燦々会)の同窓会を卒後40年目にあたる令和6年11月2日(土)にホテルグランヴィア大阪に於いて開催しました。当日は悪天候による新幹線の遅延などもあり、遠方からの同窓は来阪するのに大幅に時間がかかったようでした。母校の現役教授である上田晃一君、大道正英君、梶本宜永君や前教授の河田了君、浮村聡君をはじめ46名の同窓の出席がありました。まず全員で写真撮影を行った後、卒業後に亡くなられた浅田武夫君、小松原綾子君、松島滋君、小澤稔君、杉森清孝君、青山直樹君、

安田英煥君を偲びつつ黙祷し哀悼の意を表しました。ついで仁泉会理事の御前 治君が用意した母校附属病院の新本館建築プロジェクトの進捗状況を動画で供覧しました。乾杯の後は各テーブルに分かれて、食事をしながらの歓談となりました。宴会も中盤に差し掛かったところで、各々近況などを報告するショートスピーチを行ってもらふこととなり、自身の体調のこと、仕事のこと、趣味のこと、家族のことなどいろいろお話いただきました。なかには3回目の結婚をされた先生、子息や息女のお相手を探しておられた先生どうしの即席マッチング、100歳以上まで生きたい、可能であるとお話される先生、専門の疾患について体を動かして熱弁される先生などショートではないスピーチが続出し、あっという間に時間が過ぎました。最後に皆で学歌を斉唱しお開きとなりました。その後同ホテルでの2次会には29名、北新地での3次会には9名の参加があり、さらに旧交を温めたのち名残惜しみつつ散会となりました。



2024年11月2日 大阪医科薬科大学 昭和59年卒33期生 40周年同窓会 於 ホテルグランヴィア大阪

1列目左より 安住(橋井)裕子、宇田るみ子、大森(三上)敦子、尾上(稲多)千佳、大道正英、上田晃一、河田了、浮村聡、柴原伸久、室谷(植田)益代
2列目左より 平松昌子、辻口(滝)比登美、赤松 順、片岡伸彦、辻口幸之助、井上裕之、下 裕司、高田興、田中(石橋)啓子、大山恭夫、加藤宗寛
3列目左より 御前 治、野田哲朗、雨森正洋、北川靖、福田弥一郎、桑田克也、井上澄江、神戸尚史、濱本 浩、田伏順三
4列目左より 清木康雄、小畑仁司、宮本信一、孫田虎鉄(孫道実)、川島文雄、山田圭一、村田真二、小川竜介、李 喬遠
5列目左より 岡 博史、衣斐義高、龍治 修、金原稔幸、西野雅巳
梶本宜永君は写真に写っていませんが出席されました。 ※敬称は略させていただきます。

大阪医科薬科大学 庚申仁久会(学29期生)同窓会開催のお知らせ

日 時：2025年11月8日(土) 17時 開宴
場 所：ホテル北野プラザ六甲荘
神戸市中央区北野町1-1-14
TEL：078-241-2451

会期が近づきましたら案内はがきを送らせていただきます。
皆様方のご参加をお待ちしております。

庚申仁久会 神戸地区 浪方典宏、森松伸一、増井裕嗣



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

仁泉ひろば

jinsen-park

クラミジアの話

文責／岡野 准 (学 21 期)

細菌は概ね1μm位の大きさが多くとされていますが、クラミジアは細菌でありながら至って小さく0.3～0.4μmです。偏性細胞内寄生性細菌で他の細菌の様に培地では増殖できず生きた細胞内でのみ増殖します。

クラミジアの感染性粒子は基本小体と呼ばれる直径約0.3μmの小型球型粒子です。基本小体は細胞の食作用により宿主細胞内に取り込まれ、食胞内において網様体と呼ばれる直径約0.5～1.5μmの大型粒子に変化し、2分裂増殖を開始します。網様体は数回の2分裂増殖を繰り返した後に中間体と呼ばれる形態を経て再び基本小体となり、宿主細胞の溶解と共に細胞外へ放出されます。基本小体は代謝活性がなく、抗生物質のほとんどは効力を発揮しません。一方、網様体は活発な代謝活性を示すので、抗生物質により分裂が阻害されたり殺菌されます。此の様に、生活環の特定の時期しか抗生物質は効果しません。

ヒトに病原性のある物としてはオウム病クラミジア(Chlamydia psittaci)、クラミジア・トラコマチス(Chlamydia trachomatis)、肺炎クラミジア(C. pneumoniae)の三つが知られています。オウム病クラミジアは人畜共通感染症で鸚鵡等の鳥類と人間に感染します。C.Trachomatisは眼病・性感染症の原因になり、尿道、子宮頸部、直腸など、多くの臓器に感染症を引き起こします。主に成人の間で性行為を介して広がります。

妊婦から乳児に感染する肺炎クラミジアは肺の感染症を引き起こします。肺炎クラミジアは、感染した人が咳やクシャミに依る呼吸感染で人から人に感染します。オウム病の発生件数は年間30例位であり多いものでは有りません。クラミジア肺炎は、肺炎クラミジア以外にもオウム病クラミジアやトラコーマ・クラミジアによる肺炎も有り、正確には発生数が分かってはいないのですが、本邦の年間発生数は200位とされています。実際はもっと多いものと推察されます。トラコーマ眼炎は失明に至る病気で重大ですが本邦では年間200以下の発生率で一生経験しない眼科医も多いと思います。トラコーマ・クラミジアによる性感染症はこれらと比べ圧倒的に多くの世界で

毎年1億人を越える患者数が報告され、本邦でも1000の定点当たり2～4人 / 月つまり2000～4000人 / 月発生し、年間に換算すると24,000～48,000人が罹患しています。要するに、クラミジアで最も問題なのはトラコーマ・クラミジアによる性感染症という事になります。男性のクラミジア尿道炎、女性の子宮頸管炎、骨盤内付属器炎、肝周囲炎、不妊等が起きます。クラミジアの治療には抗菌・抗生物質が有効で、ジスロマック(アジスロマイシン)、クラビット(レボフロキサシン)、クラリス(クラリスロマイシン)、グレースビット(シダフロキサシン)等が有効とされています。唯、女性は症状があまりなく進行する傾向にあります。

仁泉ひろば

jinsen-park

2024年(令和6年)11月。 富中愛一郎 73歳半。

文責／富中愛一郎 (学 27 期)

僕にとって2回目の胃カメラ検査にて、胃角小彎に、10月に生じていた大きな円形潰瘍が、胃管の走行に平行な線分の線状潰瘍を呈している。

症状も頻回の多量の嘔吐もなくなり、嘔気が時々だ。

Drは、今内服している酸分泌抑制剤のタケキャブを減量して維持療法を指示する。ナウゼリンやアズノールは適宜追加。

さて僕の持病に、悪性黒色腫(左手首に10年前初発。形成外科手術。全身にほくろ多発。胆嚢内ポリープ転移に胆嚢摘出術。1→3か月毎の抗ガン剤の点滴受療で、ほくろおおかた消失。様々な副作用が合併した。)他に、脊柱管狭窄症(靭帯骨化肥厚による脊髄圧迫にて腕のしびれ発症。脊柱の側彎が右腕の酷使により生じ、起立障害と腰痛と脊柱の前屈を発症している。)(若い時の腰椎すべり症や椎間板ヘルニアも下地にある。)

また、血中カルシウムの変動による骨粗しょう症も合併。腰部コルセットは腰椎の補強で腰痛の軽減に役立つ。

仁泉ひろば

jinsen-park

4名の若人の未来を祝す壮行会に参加してー野球部 追い出しコンパー

文責／野球部部长 李 相雄 (学 44 期)

令和6年11月30日に現役部員や多くのOBが集い、これまでの彼らの努力を労い、輝かしい未来を祝う会となりました。

主役は、中田麗菜さん(マネージャー)、上田康介くん、遠藤啓太くん、吉村航くんの4名です。

まず、川島文雄監督(33期)から、これまでの野球部活動に対する感謝と労いの言葉が述べられました。続いて、村野実之OB会長(41期)より、「野球部での経験がこれからの人生において、多くの場面で人との交流を豊かにし、人生に彩りを添えるものになるだろう」という励ましの言葉が送られ、乾杯の音頭とともに宴席が始まりました。

当日は主役である4名から、これまで支えてくれた方々への感謝の言葉や将来への決意が語られました。彼らが「文武両道」

を見事にやり遂げた姿に、多くの参加者が感銘を受けました。コロナ禍という社会的非常時に直面し、さらに試合がままならないほどの部員数の中でも、努力を続けた彼らの姿は、後輩たちにも大きな励みとなることでしょう。今年の夏、岡山児島で開催された西医体では見事1勝を挙げ、古豪復活への道筋を後輩たちにしっかりと託してくれました。

これからの人生もまた、山あり谷ありの道のりが続くことでしょう。しかし、コロナ禍という未曾有の困難の中でも挫けることなく学業を成し遂げ、野球に全力を注ぎ、かけがえのない仲間を得た経験は、必ずや彼らの人生を支える大きな糧となるはずで

す。彼らの未来が幸せに満ち溢れること、そして文武両道を貫く野球部が今後さらに発展することを心より願い、本追いコンのご報告とさせていただきます。



仁泉ひろば

jinsen-park

大槻周平教授就任祝賀会開催のご報告 大阪医科薬科大学バレーボール部OBOG会 ・六友会主催

文責／綾仁悠介（学60期）

夏の暑さがおちついた去る令和6年10月12日土曜日、大阪医科薬科大学バレーボール部OBOG会・六友会が主催する、大槻周平先生（学47期）の本学整形外科学教室教授就任祝賀会をザ・サウザンド京都にて開催いたしました。台風10号の影響で仕切り直しとなったにもかかわらず、六友会会員のOBOGの先生総勢38名が集まる大きな会となりました。司会は池田直廉先生（学49期）にお務めいただきました。はじめに祝辞を日本医師会副会長の茂松茂人先生（学27期）から賜り、続いて六友会理事長の保田浩先生（学31期）から頂戴しました。本学医学部長の内山和久先生（学32期）より祝杯のご挨拶を頂き、大槻教授からご就任の挨拶を賜りました。バレーボール部での思い出を振り返りながら、教室運営への抱負を述べられました。歓談は終始、和やかな雰囲気、懇親を深めることができました。

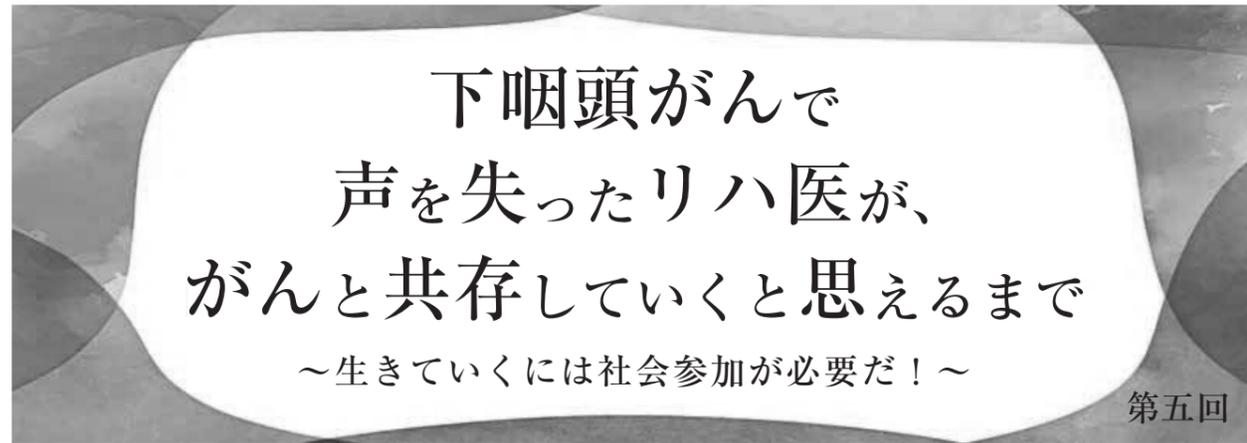
会の中頃では、大槻教授が大学時代、共にバレーボールをプレーしたチームメイトの学43期から学49期までの先生方から、各々祝辞を頂きました。当時を振り返り、バレーボールになぞらえた熱いメッセージ、また温かな祝福の言葉が贈られ、会場は大いに盛り上がりました。同級生の朝隈光弘先生（学47期）、北原直人先生（学47期）からはお仕立てスーツの記念品が贈られました。また、北原先生は、思い出の写真パネルを作ってくれました。会も終盤に差し掛かり、越智薫先生（学57期）から花束の贈呈、保田理事長から記念品の贈呈がなされました。実は、保田理事長は奥様から青がお気に入りと聞いてネクタイを選んだようですが、学生の時は赤がトレードマークのようでした。最後に、記念撮影を行い、名残惜しくも閉宴となりました。

大槻周平教授の今後のさらなるご活躍と、ご参加いただいた皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



参加者：

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 後藤研三先生 | (学21期) | 坂良逸先生 | (学45期) | 山崎哲司先生 | (学60期) |
| 松本正明先生 | (学25期) | 天野良亮先生 | (学46期) | 守倉礼先生 | (学62期) |
| 茂松茂人先生 | (学27期) | 山野剛先生 | (学46期) | 東堂まりえ先生 | (学63期) |
| 小林一朗先生 | (学29期) | 朝隈光弘先生 | (学47期) | 平井智美先生 | (学66期) |
| 保田浩先生 | (学31期) | 大槻周平先生 | (学47期) | 岩田長瑠先生 | (学67期) |
| 内山和久先生 | (学32期) | 北原直人先生 | (学47期) | 齋藤敦徳先生 | (学67期) |
| 南昌宏先生 | (学34期) | 山口裕之先生 | (学48期) | 木下絢奨先生 | (学68期) |
| 佐藤敦先生 | (学39期) | 池田直廉先生 | (学49期) | 堀口晃平先生 | (学68期) |
| 西尾公利先生 | (学43期) | 西田悠先生 | (学55期) | 池原史明先生 | (学69期) |
| 島川修一先生 | (学44期) | 越智薫先生 | (学57期) | 水谷早希先生 | (学69期) |
| 西村涉先生 | (学44期) | 綾仁悠介先生 | (学60期) | 澤村栄鳳先生 | (学70期) |
| 西本昌義先生 | (学44期) | 池田邦明先生 | (学60期) | 石井綾弥子先生 | (学73期) |
| 市岡従道先生 | (学45期) | 高井章子先生 | (学60期) | | |



文責／太田利夫 (学 31 期) 掲載：メディカ LIBRARY from メディカ出版 <https://ml.medica.co.jp/series/rihai>

#007: これでもか～この間に罹患した がんと命にかかわる副作用

声を失って終わりではありませんでした。

食道がん

2016年、下咽頭がん手術の3カ月後に内視鏡検査をしたところ食道がんを発見し、11月に内視鏡下手術を行いました。

妻の感じたこと

2016年の手術、あれほどひどい全身状態を乗り越え、これ以上の事態にならないと思っていました。順調に体力も回復し、食事もとれるようになってきた矢先の、まさかの「食道がん」。言葉がありませんでした。

実は、さらに2023年7月新たな食道がんが見つかり、治療しました。また?という気持ちしかありません。

肺がん

まず喉頭摘出した翌年(2017年)、職員検診で左の肺に5cm大のがんが見つかりました。実感はあまりありませんでした。



手術はこりこりと嫌がっていたのですが、妻に強く言われ、2017年7月に左の肺の上葉の上半分を切除しました。胸腔鏡を使用したので、傷も小さく、思いのほか痛みはありませんでした。ただし、肺の1/4を取っていますので、歩いたり、階段を上り下りしたりすると息切れが出るようになりました。

その後、抗がん剤を内服し、定期的な診察で問題なかったのですが、1年後…。

肺がん再発

2018年に、残っていた左の肺の下葉(下半分)に、ソラマメ大の肺がんの再発が見つかりました。肺がんの再発は1年以内が多いらしいです。手術は、左の肺がすべてなくなってしまうのでむずかしい状況だったので、抗がん剤治療を行いました。がん免疫療法(キイトルーダ®)も試みましたが、効果はなく、2年後(2020年)、最終的に放射線治療を選択しました。ところが…。

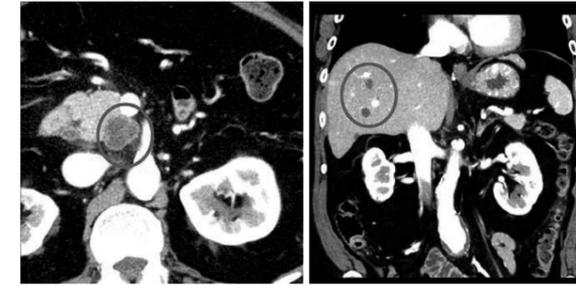
放射線性間質性肺炎

結局残っていた肺の半分も真っ白になり、ますます息切れが進んでしまいました。また放射線治療の副作用です。よっぽど放射線に弱い身体なんだなと思いました。しかし、幸いなことに、4年経った現在まで再発は認めていません。



一大事!すい臓がん

ところが、その1年後(2021年)、CTで肝臓に異常が見つかり、慌てて調べてみるとすい臓がんでした。それも肝臓と骨に転移しているステージ4“末期がん”でした。それまでのCTやPET検査ではすい臓やそのほかに異常はなかったので、まったくノーケアで、予想だにしていませんでした。



これは厄介で、5年生存率はわずかに1.2～1.6%、余命2～6カ月とのことでした。今度ばかりは、もうだめかと思いました。

妻の感じたこと

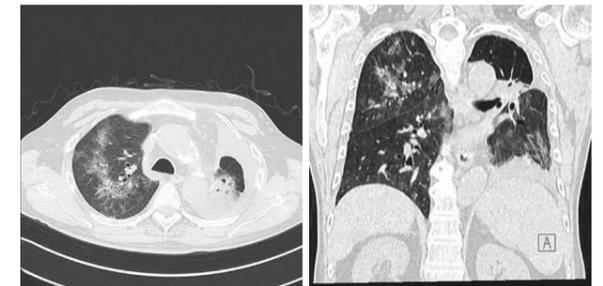
5回目のがん宣告。これには心底落ち込みました。何度も「がんです」と主治医から言われながらも、それまでは、どこか「乗り越えられる」という気持ちで治療に望んできました。ステージ4の「すい臓がん」は手術適応なしでした。「私は絶対にあきらめない」と主人と娘の前で、泣きながら訴えたと思います。おそらく、夫の前で涙したのは、このときがはじめてだったと思います。

副作用に苦しみながら、化学療法を行いました。一時は腫瘍も縮小したので、分子標的薬(リムパーザ®)の内服維持療法に入りました。ところが新型コロナウイルスに感染し、リムパーザ®を中止したため、腫瘍は徐々に増大しました。

抗がん剤をゲムシタピンに変更しましたが、わずか2回の投薬で、今度は…。

薬剤性間質性肺炎

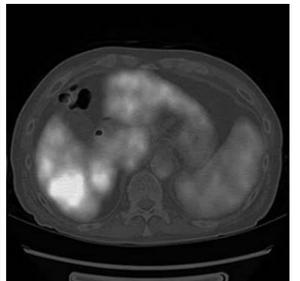
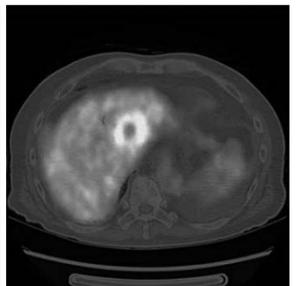
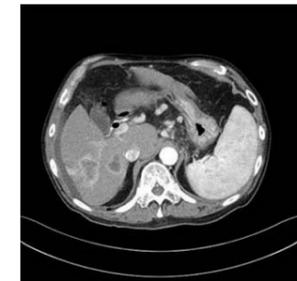
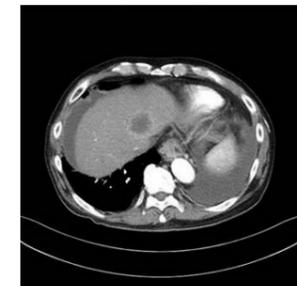
左右の肺が真っ白になり、酸素がないと動けないほどの呼吸困難になりました。外来受診後、そのまま緊急入院になりました。ステロイドパルス療法、酸素投与、ICU一歩手前でした。今考えると、かなり危ない状況だったと思います。



薬の副作用による間質性肺炎です。幸いにも治療の効果があり、酸素が必要なくなるまでに回復しました。しかし、左の肺はほとんど機能していない状況です。理学療法士さんの呼吸リハビリテーションと歩行訓練を行い、徐々に歩行時間は増えたのですが、退院してからは散歩すらしていません。のど元過ぎれば…ですね。

すい臓がんについては、2週間に1回、3日間の抗がん剤治療を行い、小康状態でした。今より大きくならないといい、がんと共に生きていく生き方でいいと思っていましたが…。

2023年10月のCTで、また腫瘍の増大を認めたため、抗がん剤を変更して治療を行っています。しかし腫瘍マーカーが悪化する一方なので、2024年1月にCT、PETをとりました。



CTでは、原発巣であるすい臓、肝臓の転移巣ともになり増大(すなわち悪化)していました。主治医から、現在の抗がん剤を続けるしかないと言われました。これは、もう精いっぱいだという宣告だったのでしょ。

外来から出て、妻と2人、なにもしゃべりませんでした。私は化学療法へ、妻は自宅へと別れる際、妻がボソッと「これ以上大きくならなかつたらいいのね」とひとこと言いました。私は涙をこらえました。

これでもか

日本人の2人に1人が生涯にがんになります(2019年の統計では、男性は3人に2人)。

そして、自分の遺伝子を調べてみると、がんになりやすい傷のある遺伝子を持っていました。当然、子どもに1/2の確率で遺伝します。娘と息子がいますが、娘は調べたところ、残念ながらこの遺伝子を持っていたので、定期的ながん検診を受けています。息子は調べていません。本人次第です。

2015年に下咽頭がん、2016年に食道がん、2017年に肺がん、翌年に肺がんを再発し、その後、2021年すい臓がん、そして2023年新たに食道がんになりました。再発も含めると、1人で4種類、6つもの“がん”になりました！タバコやお酒などの不摂生が原因だと思います。毎年なにか起こっていて、がんと病気の百貨店です。

心境の変化

しかし、思ったよりひどく落ち込むことはありませんでした。「またか」「なるようにしかならん」といった感覚です。

さすがにすい臓がんがわかったときは余命宣告されショックでしたが、残された命とか生きていられる時間などを考えたことはありません。

今できることはなにか？
しなければならぬことはなにか？

がんと共存していくのだ！

しかし、2024年の1月はこたえました。なんとかこれ以上悪化しないように祈るばかりです。これからも後ろを向くことなく、友人の勧めもあり、電気式人工喉頭を使って講演・講義を続けることで、逆に勇気を得ています。まさしく不死鳥・フェニックスです。

～ 続きます ～

友人の声

太田さんの不死鳥のような強さに、いつも畏敬の念を感じています。講演などの役割を持ったときに「がんと闘うのではなく、ともに生きていく気持ちになった」という話を聞いたとき、運命を受け入れながらも、自分の可能性をあきらめない人間の持つ、真の強さを感じました。

太田さんが私たちに届けてくれる言葉は、優しく、あたたかく、そして容赦なく、厳しくもあります。もっともっと多くの人に、太田さんの言葉を届けたいと思っています。

メディア掲載・書籍発行の際は
編集部にお知らせください

テレビ、ラジオ、新聞などのメディアにご掲載になられた会員諸先生方がおられましたら掲載された原本を同封のうえ、事務局までお送りください。(自薦・他薦は問いません)

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

冊子 抜

2024年10月31日発行の別冊整形外科第86号(南江堂)(P153-161)に私の論文「手足末梢神経障害の鑑別診断とそのコツ」が掲載されました。

今年2月に京都大学整形外科 松田秀一教授から投稿の依頼を受けて抄録を送り、査読を経て書き上げた論文です。

昨年9月に京都で開催された第36回日本末梢神経学会に会長の近畿大学整形外科 柿木良介教授から、整形外科代表として手足末梢神経障害の鑑別診断のシンポジストに選んでいただき、発表した内容をさらに詳しく解説したものです。

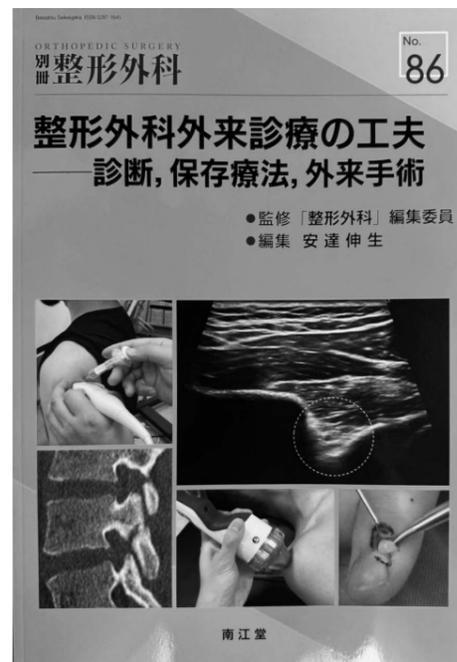
今回の私の論文は従来の整形外科の末梢神経障害の解説とは異なり、個々の病気の解説ではなく、さまざまな神経障害を中枢性あるいは末梢性あるいは個別の神経障害など、どう考えて診断の道筋を付けるかという、考え方を主に解説したものです。

大学院時代の研究論文には比較できませんが、私が臨床でいろいろ書いてきた論文や論説、電子コンテンツな

どのなかで、私としては一番よくできた内容だと自負しています。

先生方のご意見やアドバイスなどをいただければ幸いです。

学31期 井尻慎一郎



Handwritten-style article titled '手足末梢神経障害(ニューロパシー)の鑑別診断とそのコツ' by 井尻慎一郎. Includes a table for classification of neuropathy and key words.

Continuation of the article with a table for differential diagnosis of neuropathy and a list of causes for sensory neuropathy.

会 員 著 書

仁泉会の先生方へ ニュースタンダード整形外科の臨床 第1巻「整形外科の病態と診察・診断」

神戸市 井尻整形外科 井尻慎一郎（学31期）

整形外科の全集のご紹介です。

このたび、医学書専門出版会社の中山書店から、全11冊シリーズの「ニュースタンダード整形外科の臨床」の第1巻が2024年11月に発刊されます。

このシリーズでは、大学病院や基幹病院だけでなく、一般中小病院や開業医に受診するような日常でよくある腰痛、肩こり、五十肩や捻挫などの疾患も解説されています。その意味で総編集者として、東大整形外科田中 栄教授と慶応大整形外科 松本守雄教授に加えて、整形外科開業医の私も選ばれています。さらに私

は第1巻から第3巻までの責任編集者になっています。

この第1巻は整形外科の病態と診察法・診断法についてそれぞれの分野の専門家に執筆をお願いしました。第1章では、骨・関節・靭帯・関節包・筋肉・末梢神経の病態生理と治癒機転を解説していただいています。第2章では、体表解剖で痛みやしびれのある部位から想定される病態を解説していただきました。第3章では診察法を動画などを交えて説明していただいています。基本的な診察法は整形外科医およびプライマリケア医にとって大事だと思います。第4章では整形外科で代表的あるいは少し周辺的な疾患も含めて解説をお願いいたしました。

この1巻から第3巻までは基本的なこと、知っておいた方がよいことを解説するように企画しています。分かりやすいように、なるべく図やイラストを多くし、診察法やエコーの動画を紙面のQRコードからスマホなどで簡単に参照できるようにしています。

至らぬ点は多々あると思いますが、本書が大阪医科薬科大学仁泉会の先生方の診療に少しでもお役に立てれば幸甚に思います。

シリーズ構成と専門編集		
① 整形外科の病態と診察・診断 <small>最新刊</small>	井尻慎一郎(井尻整形外科)	定価 12,100円 (本体11,000円+税)
② 整形外科の外傷処置—捻挫, 打撲, 脱臼, 骨折—	井尻慎一郎(井尻整形外科)	予価 11,000円
③ 整形外科の保存的治療のすべて	井尻慎一郎(井尻整形外科)	予価 11,000円
④ 頸椎・胸椎の痛みと障害	筑田博隆(群馬大学)	予価 13,000円
⑤ 肩・肘の痛みと障害	池上博泰(東邦大学) 岩崎倫政(北海道大学)	予価 13,000円
⑥ 手関節・手の痛みと障害	佐藤和毅(慶應義塾大学)	予価 13,000円
⑦ 腰部の痛みと障害	川口善治(富山大学)	予価 13,000円
⑧ 肩胛部～股関節・殿部・大腿部の痛みと障害	坂井孝司(山口大学)	予価 13,000円
⑨ 膝・下腿の痛みと障害	古賀英之(東京医科歯科大学) 武富修治(東京大学)	予価 13,000円
⑩ 足関節・足の痛みと障害	仁木久照(聖マリアナ医科大学) 松本卓巳(東京大学)	予価 13,000円
⑪ 見逃してはいけない腫瘍・リウマチ関連疾患 (骨粗鬆症, 代謝性・遺伝性疾患を含む)	門野夕峰(埼玉医科大学) 小林 寛(東京大学)	予価 13,000円

※配本順, タイトルなど諸事情により変更する場合がございます。

New Standard in Orthopaedic Practice
ニュースタンダード
整形外科の臨床
1

整形外科の 病態と診察・診断

専門編集
井尻 慎一郎 井尻整形外科

編集委員
田中 栄 東京大学
松本 守雄 慶應義塾大学
井尻 慎一郎 井尻整形外科

診断の精度を上げ、
患者満足度を高める

中山書店

会員著書

発達が気になる子どもが 小児科の専門外来を受診するとき

著者 柏木充 (学49期)
出版社 金子書房
価格 2,420円 (税込み)



仁泉会の先生方

市立ひらかた病院の小児科の柏木充と申します。私は、小児科の中でも神経発達症（いわゆる発達障害）やてんかんなどを専門にしている小児神経科医です。

このたび、「発達が気になる子どもが小児科の専門外来を受診する時」(金子書房 2420円 179ページ)を出版いたしました。本書は、主に保護者と学校や心理職の先生方に向けて、発達が気になるお子さんが小児科の専門外来を受診した際、診察室でどのようなことが行われているかということを中心にお伝えし、外からは見えにくい発達の専門外来における診療の様子を解説しています。また、神経発達症の診察を始めてみようと考えている小児科の先生方や神経発達症の子どもたちに関わる医療・福祉関係の方にも役に立つ内容だと考えております。

本書の特徴は、神経発達症（いわゆる発達障害）として一般社会においても知られるようになりました「注意欠如多動症（ADHD）」や「自閉スペクトラム症（ASD）」以外に、「限局性学習症（SLD）」や「発達性協調運動症（DCD）」に関しても詳しく解説しているところです。また、神経発達症のお子さんによく併存する、「起立性調節障害」や「チック症」に関して、さらに、現在大きな問題となっています「ゲーム・インターネット障害」や「不登校」に関して、詳細に記載しております。小児科医が書いている神経発達症関連の本は多くない中、小児神経科医ならではの解説をしておりますので、参考にさせていただければ幸いです。

なお本書は、光栄なことに全国の公共図書館に配本している図書館流通センターにより、図書館に置くべき「きわめて公共性の高い書籍」という評価である全国の図書館に推薦する選書に選出されました。日本では年間約68,000点を超える新刊図書が刊行され、図書館流通センターには約50,000点登録されますが、その中で選出される選書は約1,400点の28%と狭き門です。現在、全国少なくとも500の図書館に納入されることが決定しております。ぜひ一度、手に取っていただければ幸いです。

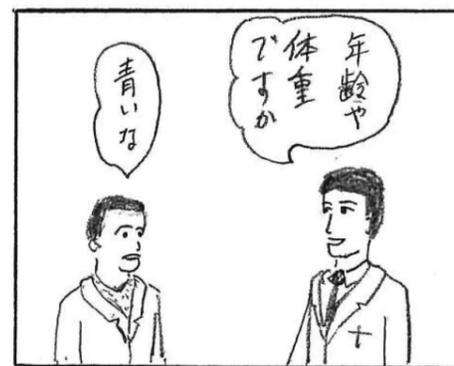
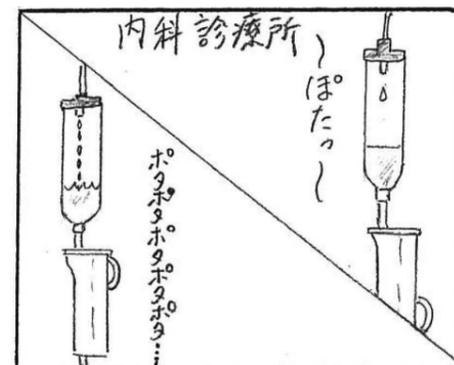
まんが 第71回

新医師臨床研修制度 2



大塚ぼん太 コール R500ml (学31期)

新医師臨床研修制度 3



本部だより 会員訃報

次の会員が亡くられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医16期 中島雪夫先生

令和6年8月13日誤嚥性肺炎の為に逝去。(100歳)。

昭和22年卒。

昭和33年9月より母校にて講師としてご勤務になられた後、昭和35年4月に鳥根県松江市にて中島耳鼻咽喉科医院を開業されました。また平成14年4月より鳥根県医師会会長、平成16年4月より日本医師会理事、平成18年4月より同代議員など数々の役員を歴任され、地域医療に貢献されました。平成6年4月に勲五等双光旭日章を受章、また昭和62年5月厚生大臣表彰(健康保険事業功労)、平成10年11月に文部大臣表彰(学校保健功労)を、平成20年11月には日本医師会最高優功賞を受賞されました。

ご遺族 子 健二様

学部2期 牧野文雄先生

令和6年9月23日老衰の為に逝去。(99歳)。

昭和28年卒。

卒業後、昭和29年7月に母校外科、昭和30年12月に同整形外科に入局されました。昭和33年1月から厚生年金五造整形外科病院でご勤務になり、昭和40年に医長として退職された後、昭和41年に兵庫県伊丹市にて整形外科医院をご開業になり、平成14年までのながきにわたり同院院長として地域医療に尽力されました。登山、油絵、クラシック鑑賞、読書、著述と多趣味な方だったのご遺族様のお言葉です。

ご遺族 妻 素子様

学部4期 斉藤 博先生

令和6年10月5日誤嚥性肺炎の為に逝去。(93歳)。

昭和30年卒。

昭和38年まで枚方市民病院外科にてご勤務になられた後、枚方市にて斉藤医院をご開業になり地域医療に貢献されました。

ご遺族 長男 圭一様

学部4期 藤沢道明先生

令和6年6月4日老衰の為に逝去。(96歳)。

昭和30年卒。

卒業後、母校微生物学教室に入局されました。昭和33年にアメリカにご留学の後、昭和35年から母校にて講師としてご勤務になりました。昭和48年より公立村岡病院副院長をお務めになり、その後院長として平成9年に退職されるまでのながきにわたり地域医療に尽力されました。

ご遺族 妻 洋子様

学部5期 村野寿昭先生

令和6年10月2日老衰の為に逝去。(96歳)。

昭和31年卒。

大阪市福島区にて村野放射線科をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 長女 和子様

学部7期 津田清重先生

令和6年4月29日老衰の為に逝去。(93歳)。

昭和33年卒。

藍野花園病院にて院長としてご勤務になり地域医療に尽力されました。藍野病院名誉院長であります。

ご遺族 長男 健吉様

学部7期 若林 明先生

令和6年4月28日慢性腎不全・腎硬化症の為に逝去。(90歳)。

昭和33年卒。

昭和54年8月に大阪府堺市鴨谷台医療センターにて内科をご開業になりました。また大阪府医師会副会長として地域医療に貢献されました。仁泉会役員としても会務運営にご尽力いただきました。

ご遺族 次男 和充様

学部11期 八木隆明先生

令和6年7月31日ご逝去。

昭和37年卒。

学部14期 上出秀夫先生

令和6年9月12日肺炎・敗血症の為に逝去。(85歳)。

昭和40年卒。

昭和52年に石川県加賀市上出医院にて院長としてご勤務になりました。令和4年にご退職された後も上出内

科クリニックにて副院長をお務めになり、地域医療に携わっておられました。

ご遺族 長男 真一様

学部17期 飯盛幸雄先生

令和6年8月27日誤嚥性肺炎・うっ血性心不全の為に逝去。(86歳)。

昭和43年卒。

母校胸部外科に入局されました。大阪市東成区にて飯盛医院をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 次男 章雄様

学部26期 篠田恵一先生

令和6年10月8日膠芽腫の為に逝去。(72歳)。

昭和52年卒。

北野病院、母校第一内科、阪和住吉総合病院にてご勤務になり、地域医療に尽力されました。藍野大学では医療保健学部理学療法学科教授をお務めになりました。

ご遺族 妻 美香様



編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和6年度 10,000円

令和5年度 10,000円

令和4年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●56巻2号(令和7年3月1日発行)

締切 令和7年1月末日

●56巻3号(令和7年5月1日発行)

締切 令和7年3月末日

●送付先:仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail:jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

新年号であり多くの先生方から新春挨拶が寄せられたこともあり、久しぶり分厚さの仁泉会ニュースになりました。

今号内に「中浪天合同会」の記事があります。母校お膝元の大阪では概ね各市町村と大阪市内区単体に仁泉会支部があり、その集合体として大阪府支部連合会があります。しかし、昨今会員数や組織率の減少があり、単独での支部活動が難しくなっている地区があり

ます。今回は大阪市中央区東、中央区南、浪速区、天王寺区合同親睦会が開催されました。多くの同窓が集われたようで、府連会長の霜野先生も参加されておられます。このような形態もありかなと思います。

そういえば最近支部会、同期会をしていないと思われる先生方。仁泉会事務局では案内状送付などの事務作業をお手伝いいたしますので、ぜひ開催を企画していただけたらと存じます。

(治)

求人 内科系常勤医募集☆駅近クリニック、週4日☆女性、シニア活躍☆マイカー通勤可、子連れ出勤可

勤務形態	常勤	休日	土曜日午後、水・日曜日、祝日
募集科目	内科 または 小児科	休暇	お盆、年末年始各1週間、その他学会参加に伴う臨時休診あり、有休は法定通り
募集人数	1名	特徴	残業なし、週4日勤務可、当直なし、年齢不問、駅チカ・通勤便利、マイカー通勤可、電子カルテ、ベビーシッター費用補助、ブランク可、地域医療に携わる、女性医師活躍、シニア医師活躍、新型コロナウイルス感染症関連
業務内容	外来、予防接種、その他（各種健診、生活指導、軽外傷処置） ※標榜診療科は、小児科、内科、皮膚科患者内訳は、小児科2割、内科7割、皮膚科1割。	加入保険等	雇用保険、労災保険、健康保険、厚生年金、医賠責
勤務日数	週4日	定年制	60歳（ただし、70歳まで再雇用制度あり）
勤務曜日	月、火、木、金	福利厚生	白衣、上履き支給、学会参加費支給、その他各種手当あり
勤務時間	8：30～19：30 ※時間相談可	給与	月給1,000,000円～1,200,000円（経験・スキル・勤務内容により決定）
休憩	180分（行動自由、院内に休憩室あり、一時帰宅も可）	交通費	月50,000円まで
時間外労働	残業なし	昇給・賞与等	応相談
当直	なし	試用期間	3ヶ月
オンコール	なし	備考	※試用期間の給与は基本給与と同じ 退職金あり（ただし、勤続3年以上） 通勤時間30分程度で、伊丹市近隣の市町に在住の方が望ましい。 希望があれば、院長職も可能。
勤務開始日	2025年4月～	受動喫煙防止措置の状況	禁煙
雇用期間	期限の定めなし		
経験年数	5年以上		
必要資格・スキル	小児科専門医資格があれば尚よし		
忙しさ	診療体制：1診体制 外来患者数：1日30～40名程度 病棟管理：なし		
その他勤務条件	診療時間は午前診9～12時、午後診16～19時（午後は受付18時半まで）。土曜は午後休診。		

勤務先：医療法人社団 宮崎クリニック
〒664-0882 兵庫県伊丹市鈴原町 4-4-1
TEL 072-777-0045
アクセス：阪急伊丹線新伊丹駅下車 徒歩8分
阪急伊丹駅、阪急塚口駅から
伊丹市バス37系統で「鈴原町4丁目」
下車徒歩1分
担当者：操 真紀（連絡先：090-9055-6336）



求人 内科系パート医師募集☆駅近クリニック、週1～2日☆女性、シニア活躍

勤務形態	非常勤	その他勤務条件	診療時間は午前診9～12時、午後診16～19時（午後は受付18時半まで）。半日だけの勤務も可。
有効期間	2024/10/10～2025/04/10	休日	水・日曜、祝日、土曜午後休診。その他学会参加等に伴う臨時休診あり。
募集科目	内科 または 小児科	休暇	年末年始・盆休み各1週間。有休は法定通り。
募集人数	1名	特徴	残業なし、当直なし、年齢不問、駅チカ・通勤便利、マイカー通勤可、電子カルテ、地域医療に携わる、女性医師活躍、シニア医師活躍
業務内容	外来、予防接種、その他（各種健診、生活指導、軽外傷処置） ※標榜診療科は、小児科、内科、皮膚科	加入保険等	労災保険、その他（医賠責）
勤務日数	週2日程度	定年制	60歳
勤務曜日・時間	月曜日 8：30～19：30 木曜日 8：30～19：30 ※勤務時間相談可	福利厚生	—
休憩	180分	給与	固定時給12,000円
時間外労働	残業なし	交通費	込み
勤務開始日	2024年11月～	昇給・賞与等	応相談
雇用期間	期間の定めあり（4か月未満）	試用期間	3ヶ月
契約更新の可能性の有無	あり	備考	※試用期間の給与は基本給与と同じ 定年は60才だが、70才まで再雇用制度あり。
条件付きで更新	あり ※技能、勤務態度により3ヶ月毎に契約更新	受動喫煙防止措置の状況	禁煙
経験年数	5年以上		
必要資格・スキル	小児科専門医資格があれば尚よし		
忙しさ	診療体制：1診体制 外来患者数：30名程度 担当/日 病棟管理：なし		

勤務先：医療法人社団 宮崎クリニック
〒664-0882 兵庫県伊丹市鈴原町 4-4-1
TEL 072-777-0045
アクセス：阪急伊丹線新伊丹駅下車 徒歩8分
阪急伊丹駅、阪急塚口駅から
伊丹市バス37系統で「鈴原町4丁目」
下車徒歩1分
担当者：操 真紀（連絡先：090-9055-6336）



テナント募集 消化器内科・内科の承継物件

場所：大阪市浪速区難波中 2-3-3

募集科目：皮膚科・婦人科を除く全科目

※推奨科目：消化器内科・内科

募集区画：2階 35.4坪



- 角地に面しており、視認性良好です
- 乗降客数の多いなんば駅からのアクセスが抜群です
- 皮膚科・婦人科盛業中の医療モールです



- 5F：婦人科クリニック
 - 4F：皮膚科クリニック
 - 3F：美容エステ
 - 2F：募集区画
 - 1F：日本調剤なんば薬局
- ★各階盛業中
★南海電鉄「なんば」駅徒歩2分

■エレベーター設置

■内視鏡、腹部・心臓エコー、CT 設備等は譲渡対象です。(金額等応相談)

○昼夜通して人通りの多いエリアです。周辺はショッピングモールが多く立地しており、視認性抜群です。

- ・賃貸借契約にあたっては、調整・打ち合わせが必要になります。
- ・建物外観や仕様・契約面積等は変更になる可能性があります。

お問い合わせ先

仁泉会事務局：TEL 072-682-6166
 FAX 072-682-6636
 e-mail jimuj@jinsenka.net



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434

大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



2027年全容完成予定

2025年B棟完成

2022年A棟完成



Since 1927

1960年病院1号館完成



募集要項

- 募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実
- 募金目標▶10億円
- 募集期間▶～2027年3月
- 募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円
- 顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

- 特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。
- 申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

- 募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円
- 申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。
- 【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
 OMPU Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html

至誠仁術を備える人材の育成をめざして
ご支援のお願い